

福澤諭吉譯  
童蒙教草初編

一

特35-487

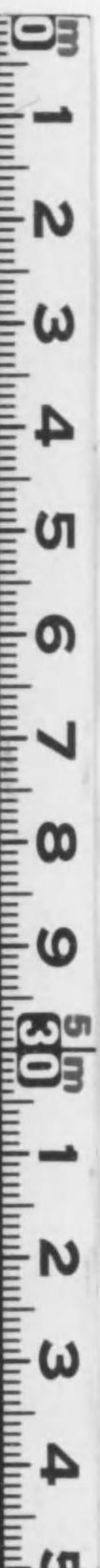


\*1200800187477\*

特35

187

五 册	五 八 號	三 架	一 九 函
--------	-------------	--------	-------------



始





福澤諭吉譯

童蒙教草

初編

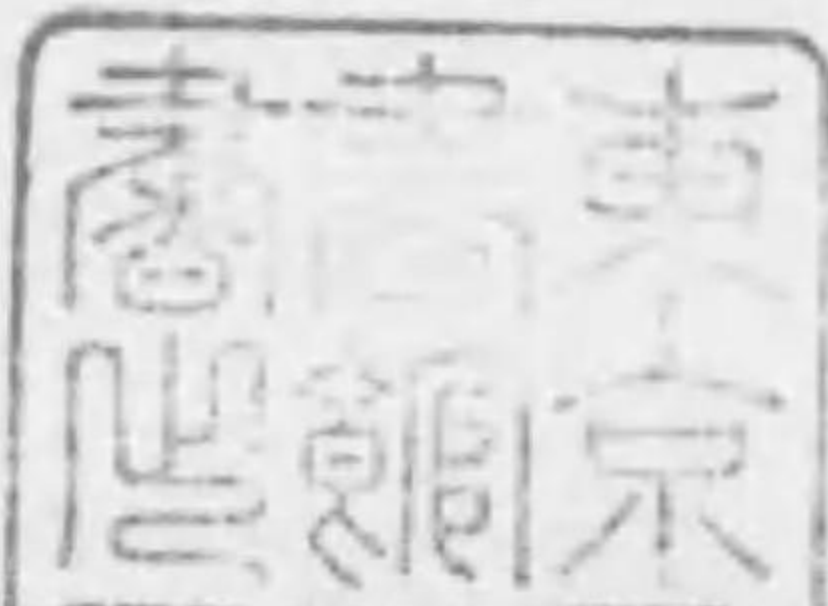
明治十三年

三月再板

福澤氏藏版



特35  
487



童蒙教草序

大凡ソ天下ノ事物一利アレバ必ズ亦タ一害ナギ  
ヲ得ズ蓋シ其弊ハ分限ヲ知ラザルノ罪ナリ方今  
我邦ニ西洋ノ說漸ク行ハルト雖モ其說ノ由テ起  
ル源ヲ尋レバ大槩皆外人一タノ茶話ヲ聞タル者  
歟或ハ新聞紙ニ等シキ數卷ノ譯書ヲ讀タル者ニ  
過ギズ半解半知其一ヲ知テ其二ヲ知ザルモハ大  
ニ事物ノ分限ヲ誤リ未タ一利ヲ得ズシテ先ツ其  
害ヲ見ルイアラシク經濟ヲ談ジテ分限ヲ知ザレバ  
利ニ走ルノ弊アリ窮理ヲ説テ分限ヲ知ザレバ天



ヲ恐レザルノ弊アリ清潔ヲ貴ブトハ衣食居住ニ  
奢侈ヲ極ル者ノ口實ナリ燕養ヲ重ンズルトハ酒  
食ニ耽ル者ノ遁辞ナリ勇敢ハ亂暴ニ陥リ簡易ハ  
粗慢ニ流ル、等枚舉ニ遑アラズ就中彼ノ洋學者  
流ガ英亞諸國ノ史類ヲ讀ミ自主自由ノ趣旨ヲ誤  
認テコレヲ放肆無頼ノ口實ニ用ル等ノトアラバ  
其世教ニ害ヲ為ス一舉テ云フ可カラズ余輩竊ニ  
コレヲ患ル一久シ依テ今コ、ニ英人「チャンブル  
氏」所著ノ「モラルカラスブック」ト題セル書ヲ翻譯シ  
テ童蒙ノ讀本ニ供セリ願クハ後進ノ少年諸學入

門ノ初ニ先ツ此書ヲ讀ミ慎獨脩身以テ分限ヲ誤  
ラズ次第ニ物ニ接シ人ニ交ルノ道ヲ明カニセバ  
彼ノ經濟窮理史類百般ノ學モ其實ノ裨益ヲ為シ  
テ弊害ヲ生ズル一莫カル可シ書成ルニ及ビ英人  
「ダイトレル」氏ノ萬國史中ヨリ一章ヲ抄譯シテ序  
文ニ代ル一尤ノ如シ  
我本國ノ為ヲ思ヒ其國ヲシテ義理ニ從ヒ自由  
ヲ得セシメントスルハ慷慨ノ氣ト云フ可シ盛  
徳ノ心ト称ス可シ一國ノ人民此氣ヲ存シ此心  
ヲ抱ケルハ禮義ノ風俗國中ニ浹洽スルノ證ナ



リ然リト虽此コ、ニ論ズ可キ一事アリ凡ソ世  
ニ文字誤用ノ例少カラズト虽此其字ヲ慢ニ弄  
テ真ノ意義ヲ失スルノ甚シキハ特ニ自由ノ二  
字ヲ以テ最トス風俗敗壞シタル國ニ於テ自由  
ヲ唱フル者ハ必ズ放肆無頼ノ輩ニテ其放肆愈  
甚シケレバ其自由ヲ唱フルノ聲モ亦愈喧シ此  
輩ノ所謂自由ト其毫モ報國ノ義ニ關係スル所  
アルニ非ズ唯羈絆ヲ脱シ限度ヲ越ルノ意ニ誤  
用スルノミニテ真ノ自由ニハ非ザルナリ世人  
若シ其真偽ヲ糾サント欲セバ試ニ其首魁ノ私

ヲ顧ミ其黨與ノ行状ヲ探索ス可シ果シテ自由  
ノ假面ヲ脱シ放肆無頼ノ真面目ヲ發見スルニ  
足ラン故ニ云ク世上一般ノ惡風俗ト報國盡忠  
ノ赤心トハ同時同國ニ并立ツ可ラザルモノナ  
リ

明治五年  
壬申三月

福澤諭吉 譯



初編目錄  
卷之一  
第一章動物ヲ扱フ心得ノ事  
イ 子供ト蝦蟆トノ事 寓言  
ロ ゼイムストロベルトノ事  
ハ 慈悲ナキ子供ト顕微鏡ノ事  
ニ 牢内ノ罪人鼠ト遊ブ事  
第二章親類ニ交ル心得ノ事  
イ 鼠ソノ親ヲ負フ事  
ロ アナピアストアムヒノムスノ事

初編目錄

卷之一

第一章動物ヲ扱フ心得ノ事

イ 子供ト蝦蟆トノ事

寓言

ロ ゼイムストロベルトノ事

ハ 慈悲ナキ子供ト顕微鏡ノ事

ニ 牢内ノ罪人鼠ト遊ブ事

第二章親類ニ交ル心得ノ事

イ 鼠ソノ親ヲ負フ事

ロ アナピアストアムヒノムスノ事



ハ 歴山王母君ニ事ル事

ニ フレデリック其扈從ヲ憐ム事

ホ 葡萄牙ノ兄弟死ヲ争フ事

第三章貴キ人ニ交リ賤シキ人ニ交ル心得ノ事

イ シ、リイ國ノ君アルホンソノ事

ロ 主人ノ言葉宜シカラズシテ譏ヲ受ケシ事

ハ 召使ノ女マリノ事

ニ プランコス及ピソノ家来ノ事

ホ 忠臣其身ヲ狼ニ投ル事

第四章勸ク事

イ 百姓其子ニ遺言ノ事 寓言

ロ ケレシン魔法ヲ仕フ事

ハ 出精スル大工ノ事

ニ ベンジャミン・フランキリンノ事

ホ 風阿<sup>フウア</sup>里<sup>リ</sup>茶<sup>チ</sup>土<sup>ツ</sup>ガ<sup>カ</sup>諺<sup>コトワザ</sup>ノ事 フランキリンノ文

ヘ 閑ニシテ居ラレヌ事

ト 將軍スピノラノ事

第五章自カラ其身ヲ動カシ自カラ其身ヲ頼ミ一身

ノ 獨立ヲ謀ル事

イ 力ノ神ト御者トノ事 寓言



○麥畑ノ雲雀ノ事 寓言

○ハ貴族「ロベルト」ノ事

○ニ行クト来レトノ事

第六章 狼狽ザル事

○イ 火事ノ時ニ二人ノ婦人心得方ノ異ナル事

○ロ 麥刈ル百姓怪我セシ事

○ハ 黒キ種物ノ事

卷之二

第七章 物事ニ心ヲ留メ機ニ臨ミ變ニ應ズル事

○イ ガセンダ「天文」ヲ語ル事

○ロ 亞米利加ノ土人肉ヲ盗マル、事

○ハ 鼠玉子ヲ取ル事

○ニ 難船シタル水夫ノ事

○ホ 畫工ノ召使其主人ヲ助ル事

○ヘ 十三歳ノ子供佛蘭西人ヲ捕ル事

第八章 謙退スル事

○イ 假着シタル鳥ノ事

○ロ イサアク・ニウトンノ事

第九章 禮儀ノ事

○イ ペルシヤノ百姓ノ事



○英吉利ノ人 [チユリシ]ニ行キシ事

○第十四世 [ロイス]ノ事

第十章 飲食ヲ程能スル事

○一二足ノ蜜蜂ノ事 寓言

○ [ロイス・コロナロ]ノ事

○ [ハジヤク・シムキン]ノ事

○ 美味ハ粗食ニ在リト云フ事

第十一章 養生ノ事

○ 一 濕氣深キ住居ノ事

○ 胃ノ病ヲ療治シタル事

○ 一 若キ男風ヲ引キシ事

第十二章 自カラ満足スル事

○ 一 黄金ノ王子ヲ生ム鷲鳥ノ事 寓言

○ 青雲ノ大人不幸ノ事

○ 八 御殿ノ鼠ト田舎ノ鼠ノ事

○ 二 貧院ノ婦人満足セル事

○ 六 蝦蟆ノ仲間ニ君ヲ立ル事

第十三章 儉約ノ事

○ 一 蟻ト蟲蝨ノ事

○ 英雄ノ人儉約スル事



- ⑧ 質素儉約ナル家内ノ事 ハンエルノ文
- ⑨ 半兩金ノ價ノ事

卷之三

第十四章 仁ノ事

- ① シヨシホワルドノ事
- ② リツプシドニノ事
- ③ 奉行ドロモンドノ事
- ④ コシウスコノ事
- ⑤ 羅馬ノ帝チトスノ事
- ⑥ 日々ノ職分ノ事

第十五章 怒ノ心ヲ程能クシ物事ニ堪忍シ人ノ罪ヲ

免ス事

- ① ソコレイトスノ事
- ② 氣前ヨキ人ノ奇談ノ事
- ③ 堪忍ヲ以テ集リタル家族ノ事
- ④ 德ヲ以テ怨ニ報ル事
- ⑤ 海上ノ企ノ事
- ⑥ ウベルトノ事
- ⑦ ツビト蠅ノ事

第十六章 柔和ナル事



① 風ト日輪ト旅人トノ事 寓言

② ジョウゼフ・ホルトス罪人ヲ取扱フ事

③ ハシ、リイ國ノ君アルホンソノ事

第十七章他人ノ物ニ就キ誠ヲ盡ス事

④ 盜賊雀ノ事

⑤ ミラシノ門番ノ事

⑥ ハレヲナルドノ事

⑦ モセス・ロスチャイルドノ事

第十八章他人ノ面目ニ就キ誠ヲ盡ス事

⑧ イソコレイトヲ害シタル事

二編目録

卷之四

第十九章他人ノ天然ノ通義ニ就キ誠ヲ盡ス事

① 佛蘭西ニ於テ「ジャケリ」ノ一揆ノ事

② トヲマス・クラルクソンノ事

第二十章職分ニ就キ誠ヲ盡ス事

③ 盲人ト犬トノ事

④ 將軍ワシントンノ事

⑤ ハ捌キノ役人ガスコインノ事



② 誠アル入札人ノ事

第二十一章借財ニ就キ誠ヲ盡ス事

① パレイスノ君ノ事

② デンハム借財ヲ返ス事

③ 貴族エルレスリノ事

第二十二章鄙劣ナル利益ヲ得ルニ當リ誠ヲ盡ス事

① ジヨウジデイドノ事

第二十三章物ヲ賣買スルコトニ就キ誠ヲ盡ス事

① 律儀ナル丁稚ノ事

② 焰硝ヲ蒔ク事

第二十四章約束ヲ守ルニ就キ誠ヲ盡ス事

① ムウア人ト西班牙人ノ事

② 佛蘭西王ジヨンノ事

第二十五章益ナキ惡事ヲ為サバルヤウ誠ヲ盡ス事

① 蜜蜂ト黄蜂ノ事 寓言ノ事

② 象ト仕立屋ノ事

第二十六章信實ヲ守ル事

① 羊飼ヲ子供狼ト呼ビシ事

② ロベルトトフランクノ事

③ アメリヤ・ボルホルズノ事



卷之五

②ヘレン・ウラクルノ事ノ事

第二十七章大量ナル事

①マセドニアノ君ヒリツプアシキ評判ヲ受シ事

④ウ井ルシムトゴドルヒンノ事

⑧マダムウ井ラセルヘノ事

②若キ画工三人ノ事

⑥ホ瘦犬ノ煩ハシキ事

⑨ハワナノ奉行ノ事

第二十八章武勇ノ事

①グレイスダリングノ事

④瓦師ノ子タムノ事

第二十九章我本國ヲ重ンズル事

①ギリイキノ將軍船ヲ焼カントセシ事

④カレイノ義士ノ事

目錄終

一此書全五冊二十六章殊ニ甘ク新張ニ供ヤリ其誠意ヲ



凡例

一此書全五冊二十九章教ノ科ヲ標題ニ掲ゲテ其趣意ヲ記シ一章ノ下ニハ又數箇條ノ例ヲ舉テ本章ノ意ヲ明ニセリ即チ其例ハ題ノ頭ニ①②③④ノシルシヲ附タルモノ是ナリ

一彼ノ國ニテハ人ノ姓名ヲ記スニ名ヲ先ニシテ姓ヲ後ニスルノ風ナリ故ニ書中或ハ其姓ノミヲ舉ゲ或ハ名ノミヲ記スコトアリ譬ヘバ「ジヨウジ・ワシントン」ノ「ジヨウジ」ハ名ニテ「ワシントン」ハ姓ナリ是等ハ唯「ワシントン」ト記シテ「ジヨウジ」ノ文字ハ略セリ

一書中ノ假名ノ文字ニ右ノ方ヘ「」ノシルシアルモノハ人ノ姓名ナリ左ノ方ヘ「」ノシルシアルモノハ地ノ名ナリ上下ノ左右ヨリ「」ノシルシアルモノハ彼ノ國ノ事物ヲ原語ノマヽニ舉タルシルシナリ

一此原書ハ英吉利ノ出版ユエ尺度並ニ通用金ノ名モ英ノ法ニ從ヘリ即チ「ポンド」ハ英吉利ノ通用金ノ名ニテ「ポンド」ハ凡我四圓五十錢ニ當ルコレヲ二十ニ分ケシモノヲ「シルリング」ト云ヒ我二十二錢半ニ當ル又コノ「シルリング」ヲ十二ニ分チ「ペニ」又ハ「ペンス」ト云ヒ一錢八七五ニ當ル



一英ノ一里ハ我十四町四十三間バカリニ當ル

一英ノ一斤ハ我百二十匁バカリニ當リ之ヲ「ス」ハ我八匁

バカリニ當ル「ス」ハ我二十匁ニ當ル又「ス」ハ我

一彼ノ國ニ八年號ナシ其宗旨ノ改リタル年ヲ紀元第一年

トシテ今年ヲ計ヘ我明治五年ハ彼ノ千八百七十二

年ニ當ル「ス」ハ我「ス」ハ我「ス」ハ我「ス」ハ我

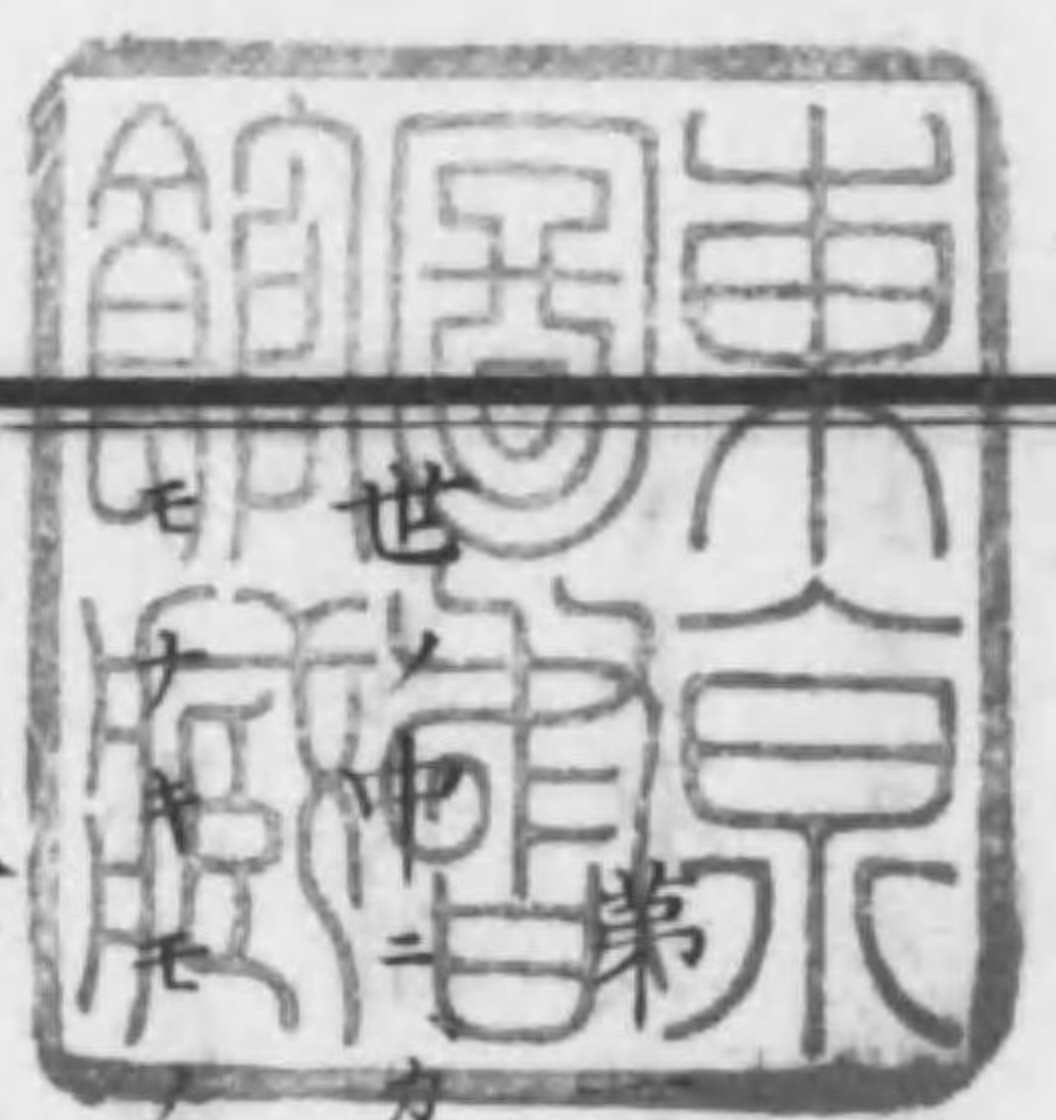
「ス」ハ我「ス」ハ我「ス」ハ我「ス」ハ我「ス」ハ我

明治五年  
壬申三月

福澤諭吉 記

「ス」ハ我「ス」ハ我「ス」ハ我「ス」ハ我「ス」ハ我

童蒙教草卷之一



章動物ヲ扱フ心得ノ事

世ノ中ニカヘル。デ、ムシ、ハイ、イモムシ、ナド云フ虫アリ罪

モナキナルニ心ナキ人ハ見付次第ニコレヲ苦シメコ

レヲ殺スコトアレドモ以テノ外ノ事ナリ假令ヒ如何ナル

虫ニテモ無益ニコレヲ痛ルハ宜シカラズ且又小サキ動物

ヲムゴクスルヨリシテ追々コレニ慣レ我同類ノ人ヲ扱フ

ニモ慈悲ノ心ヲ失ヒ遂ニハ大惡無道ノ働ヲ為スニ至ルベ

福澤諭吉 譯



シ故ニ人若シ不圖シタル出来心ニテ斯ル虫ヲ殺サントスルコトアラバ則チ我身ニ立返リ若シ我身体ヨリ數倍大ヒナル怪物アリテ我ヲ苦シムルコト今我コノ虫ヲ扱フガ如クナラバ其苦痛如何バカリナラント身ニ引替テ虫ノイタサヲ思ヒ知ルベシ  
牛馬犬猫ナド飼ハゞ食物ヲ十分ニ與ヘ然ルベキ居處ニ置キ其取扱ヲヨクシテカニ余ルホドノ仕事ヲ為サシムベカラズコハ其飼主ノ役前ナリ馬ノ既ニ老タル歎或ハ働キテ既ニ疲レタル歎或ハ飼料ノ少クシテ走り能ハザル者へ妄ニ鞭ヲ加ヘテ其進マザルヲ叱ルハ主人ノ耻ト云フベシ

人ノ食物ニ用ル畜類ヲ殺スニハ差支ナケレドモコレヲ殺スニ無益ノ苦痛ヲ為サシムベカラズ畜類ヲ引テ市ニ出ル道スガラモムゴクコレヲ扱フコト勿レ殺ストキハ成夫ク手早クスベシ假令ヒ牛屠ル人ニテモ心ヲ用レバ仁ノ道ニ近クヲ得ベシ

①子供ト蝦蟆トノ事 寓言

蝦蟆アマタ住ヘル池ノ邊ニ大勢ノ子供来リテ池ノ中へ小石ヲ投グニツ玉ノ三ツ玉ノトテ數百ノ小石一時ニ水ニ落チ蝦蟆ノ難渋一トカタナラズ今ニモ命危シト共ニ心配シタリシガツガ中ニ一疋ノ強キ蝦蟆アリ危キ場合ヲ恐レモ



セズ水ノ面ニ頭ヲ出シテ聲高ラカニ云ヒケルハアラ慈悲  
ナキ子供哉如何テ惡事ヲ學ブノ速ナル君ノ為ニハ慰ナル  
モ我等ガ為ニハ一命ニ關ルコトナリヨクモ物事ノ道理ヲ  
勘辨シ給フベシト

○ゼイムストロベルトノ事

ゼイムストロベルトハ兄弟ナリ兄ハ七歳弟ハ五歳兄ハ性  
質ヨクシテ其心意最トヤサシキ子ナリ弟モヨキ子ナレド  
モ齡少ナクシテイマダ博ク物事ヲ知ラス動モスレバ人情  
ニ遠クシテ惡シキ舉動ヲ為スコトアリ或日兄弟連ニテ野  
邊ニ遊ブ道スガラ籬ノ邊ニ小鳥ノ巢ヲ掛タルアリ巢ニ居

ル親鳥ハ人ノ來ルニ驚キテ飛去ル跡へ兩人ハ其巢ヲ窺ヒ  
見ルニ雛子三疋アリシカバロベルトハ悦ビ彼ノ雛子ヲ取  
テ我家ニ歸ラントセシニゼイムスコレテ止テ云フヨフハ  
過ギシ頃父上我ニ語り給ヘルニ鳥ノ巢ヲ取ルハ宜シカラ  
スト小鳥ノ其子ヲ愛スルハ我父母ノ我等兄弟ヲ愛シ給ヘ  
ルガ如シ今其雛子ヲ奪去リナハ親鳥ノ悲衰如何バカリナ  
ラン恰モ我家ニ惡黨ノ來テ我等兄弟稚キ弟妹マデモ搔ヒ  
抓テ去リシトキ父母ノ悲ミ給フガ如クナルベシ且又雛子  
ハ其親鳥ノ養育ニ由テノミ生長スル者ナレバ子供ノ手ニ  
掛リテハ育チガタシサレバ今此雛子ヲサシ置テ其家トセ



ル巢ニ在ラシメ自在ニ飛テ餌ヲ求ルコトノ叶フ迄生長セ  
シムルコソ道理ナルベシト懇ニ告ケレバ「ロベルト」モ今ハ  
初テ合点ユキ小鳥デサヘモムゴク扱フベカラザルノ理ヲ  
知り遂ニ兄ノ諫ニ従ヒタリ  
斯クトモ知ラズ右兩人ノ父ハ用事アリテ籬ノ彼方ニ来リ  
偶然兄弟ノ物語ヲ立聞キ其始末ヲ見テ喜堪ヘズ我子ノ  
側ニ走り寄其言葉ヲ称シ其舉動ヲ譽メ恩愛ノ情以前ニ百  
倍セリ且兄弟ノ者ヘ告ルニハ小鳥ノ悲ムト喜ブトハ先ツ  
些細ナル事ニ似タレドモ無益ニ其雛子ヲ奪ハントスル子  
供ノ惡心ニ至テハ決シテ些細ナラズト云ヘリ實ニ此惡事

ヲ犯スハ慈悲ノ心ナキ徴ナレバ行末モ亦罪ヲ重テ益々  
ムゴキ舉動ヲ為スコト推テ知ルベシ然ルニ今此二人ノ子  
供既ニ小鳥ノ巢ヲ奪フノ惡事タルヲ知りタレバ其父ノ喜  
ブモ亦道理ナリ

ハ慈悲ナキ子供ト頭微鏡ノ事

一人ノ子供アリ蠅ヲナブリ殺シニシテ自カラ悦ビ或ハ其  
羽根ヲ抜キ其脚ヲムシリ自由ニ動キ得ザルヲ見テコレヲ  
悦ビ或ハ數十ノ蠅ヲ集メ一時ニヒシギ殺シテ愉快ナド、  
云ヘリ其子ノ師匠コレヲ心配シテ荒々シキ舉動ヲ止メ  
ントスレドモ聞入レズ或ハ言葉ヲ盡シテ云ヒ聞カセ蠅ト



イヘドモ苦痛ハ覺ルモノナルゾ且其命ト其身ノ自由ト樂  
ミトハ天然ニ備ハリタルモノニテ蠅ト虽ドモ人トイヘド  
モ少シモ異ナルコトナシトノ理合ヲ説キ勸レドモ意地ノ  
コワキ子ナレバ更ニコレヲ耳ニモ留メズ蠅ノ七轉八倒ス  
ル有様ヲ見テ聊モ其苦痛ヲ察スルコトナシ  
先生ノ所持セル道具ニ顕微鏡ト云フモノアリ此道具ハ細  
ナル物ヲ太ク見スル目鏡ナリ或日例ノ子供ヲ呼ビ美シキ  
奇妙ナル動物ヲ見セシトテ顕微鏡ヲ窺ハシメヨク氣ヲ付  
テ見ラレヨ此動物ハ首ヨリ尾ニ至ルマデ黒キハ墨ノ如ク  
白キハ銀ノ如ク其毛ノ色澤モ亦不思議ト云フベシ頭ニ二

ツノ眼アリテ眼ノ周圍ニハ白銀ノ毛ヲ生ジ胴ハ二ニ分レ  
テ其接ル處互ニ相重ナリ惣身ニ羽衣ヲ着シ金襴ノ装ヲ飾  
リ王公大人ノ衣裳モコレニ及バザルベシト云ケレバ彼ノ  
少年モコレニウツハヌカシテ脉レドモ尚アキ足ラズコハ  
如何ナル動物ナルヤ其名ヲ聞カセ給ヘト云フニ任セテ先  
生ハ顕微鏡ノ内ヨリコレヲ取出シ其本体ヲ示セバ思モ寄  
ラズ一足ノ蠅ナリ

③ 牢内ノ罪人鼠ト遊フ事

往古佛蘭西ノ都「パリス」ニ「バスタイル」ト云フ城アリテ獄屋  
ノ代ニ用ヒ國王ノ氣ニ叶ハヌ者アレバ直ニ捕テ此獄屋ニ



押込ノ數年ノ間鎖ニ繋ギテ一步モ外ニ出ルヲ許サズ外ヨ  
リ來ル親類ヘモ面會ヲ禁ジテ其法甚ダ嚴重ナリ此牢屋ニ  
繋ガレタル罪人ノ内ニ羅忠太ナル者アリ二十三歳ノ時ニ  
召捕レ三十五年ノ間牢内ニテ月日ヲ送り出牢セシトキハ  
既ニ老人トナリシ者ナリ此忠太ハ牢内ノ狹キ一部屋ニ押  
込メラレ食物ヲ持來ル牢番ノ外ニハ絶テ話ヲ為ル相手モ  
ナシ凡ソ世ノ中ニ人ノ附合ヲ絶ツホド不仕合ナルモノハ  
アラズサレハ忠太ノ難渋モ亦思ヒ知ルベキナリ  
忠太ノ部屋ハ壁ニ一ノ隙間アリテ日ノ光ヲ取ルノミ其他  
ハ四方共ニ厚キ壁ニテ外ノ景色ヲモ見ルベカラズ且壁ノ

厚サアツケレバ其隙間モ奥深クシテ部屋ノ内ハ甚ダ暗シ  
或日忠太コノ隙間ヨリ外ヲ窺ヒ見シニ隙間ノ外側ニ一疋  
ノ鼠來レリ元來鼠ナドノ近寄ルハ人ノ嫌フベキコトナレ  
ドモ忠太ガ身ニ於テハ然ラズ數年ノ久シキ年月ヲ唯獨リ  
ニテ明ケ暮シ淋シサノ餘リ何モノニテモ生タルモノト  
アレバ其近ヅクヲ喜ビテ傍ニアリ合フパンノ切端ヲ取テ  
物靜ニ投與ヘケレバ鼠ハ進出デ、コレヲ喰ヒ尚其アトヲ  
望ム様子ニ見ユレバ又間近キヘ一切レテ投ゲ喰ヒ終レバ  
又近ク投ゲ次第々々ニ近ヅケテパンヲ與フル其間ハ少シモ  
逃去ル様子ナク漸ク腹ニ満チシト見ヘ喰ヒ殘シタル物ヲ



穴ニクワヘテ已ガ住居ノ穴ニ歸リケリ翌日モクダンノ  
 鼠又來リケレバパンヲ與フルコト昨日ノ如クシ今日ハ馳  
 走セントテ牛ノ肉ヲモ少シク與ヘタリ三日目ニモ又出デ  
 來リ次第ニ馴レテ忠太ガ掌ヲニ載タルモノヲ喰テ恐ルミ  
 氣色モアラズ五日目ニハ其馴染イヨク深ク我恩人ノ傍ニ  
 住居セント思ヒシニヤ壁ノ隙間ノ内側ニ來リ穴ヲ求テ居  
 処ヲ定メリ其翌朝早ク忠太ノ許ニ來リ一度食事ヲ終リテ  
 何處トモナク行シガ次ノ朝ニハ一足ノ友ヲ別連レ來レリ  
 コハ其牝鼠ナリ此牝鼠ノ來リシ始ハ頻リニ用心スル様子  
 ニテ穴ヨリ出ルコトナシ忠太ハコレヲ馴サントシパンヲ

與ヘ肉ヲ投ゲ彼是トスレトモ兎角ニコレヲ喰ハザリシガ  
 牝鼠モ彼牡鼠ガナレクシク人ニ近ヅクヲ見テ漸クコレヲ  
 見習ヒシニヤ折々ハ出デ、パンヲ喰ヒ又走テハ穴ニ歸リ  
 次第ニ憚ル色モ薄ラギテ或ハ牡鼠ト食物ヲ争フコトアリ  
 時トシテ其争ヒニ勝チ牡鼠ノ食ヲ奪取ルコトアレバ牡鼠  
 ハ忠太ノ手許ニ來リ事ノ次第ヲ告上ゲテ其鬱憤ヲ晴サン  
 ト求ル様子ヲ為スニ由リ代リノ肉ヲ與フレバサモ悦バシ  
 クコレヲ取り主人ノ側ニ近寄りテ猿ノ物ヲ喰フガ如ク前  
 ノ足ニテ肉ヲ抱ヘユ悠々シテコレヲ喰フ其有様ハ彼ト  
 此トノ言語コソ通ズルコトノアラヌノミ已ガ喰ヘル食物



テ相手ノ牝ニ見セ誇リ取ラントナラバ取テ見ヨ主人ノ手  
許近ケレバ防禦ノ備手厚シトイハンバカリノ風情ナリ  
右ノ如ク牡鼠ハ忠太ノ側近ク物ヲ喰テ少シモ憚ル模様ナ  
カリシガ牝鼠ノ方ハ其馴染イマダ深カラズシテ兎角ニ人  
ヲ恐ル、様子ナリサレドモ自カラ饑テ同類ノ満腹スルヲ  
見ルニ堪ヘザリシニヤ或ハ忠太ガ牡鼠ニ例ノ食物ヲ與フ  
ル處ニ思ガケナク彼ノ牝鼠ガ突然トシテ飛掛リ其食物ニ  
嚙付テ取ラントセシニ牡鼠モ容易ニコレヲ渡サジト逃ン  
トスレバ牝鼠ハ力ニ任セテコレヲ引キ上テ下ヘト組ミ轉  
ビマロバリナガラ穴ヘ近ヅキシバシ勝負モ見ヘザリシガ

牝ノ剛勇一方ナラズ遂ニ牡ヲ嚙テ穴ノ内ニ引込ケリ忠太  
ハ此合戦ヲ見物シテ獨リ奥ヲ催シ一時其身ノ縲紲ニ在ル  
ヲ忘レタリト云フ  
斯クテ日ヲ経ルニ從ヒ牝モ次第ニ馴染テ忠太ガ掌ラニア  
ル物ヲモ喰ホドニナリ夫婦ノ鼠睦シク折柄又一足ノ鼠来  
リ此鼠ハ新叅ノ時ヨリヨク馴レテ二度目ニ来リシトキハ  
其振舞古叅ノ二足ニ異ナラズ既ニ忠太ノ處ヲ已ガ住家ニ  
定メテ翌日ハ別ニ二足ノ鼠ヲ連レ来リ其後一七日ノ間ニ  
尚五足ヲ増シ今ハ鼠ノ數十足トナリ主人ト共ニ十一ノ家  
内繁昌賑々シク忠太ハ此鼠ニ各々名ヲ付ケテ玉ヨ三ヨト



其名ヲ呼ベバ銘々ニコレヲ聞分ケテ種々様々ノ藝ヲ為シ  
食事終レバ舞ヒ躍リナドシテ主人ノ側ニ付纏ヒ恰モ仲ヨ  
キ家内ニテ孫子ノ戯ル、ガ如クナリ忠太ノ悦ビ譬ン方ナ  
ク最早獄屋ノ艱苦モ忘レ慈悲ナキ浮世ニ日ヲ送ランヨリ  
ヤサシキ鼠ニ交リテ情アルコソ本意ナレトテ二年計リノ  
其間ハ快ク暮セシガ其後又牢内ニテ部屋ヲ移スコトアリ  
テ忠太ハセンカタナク此鼠ヲ殘シ置キ涙ヲ流シテ別ヲ告  
ゲタリトゾ是ニ由テ考フレバ人間萬事友ナキホド苦シキ  
ハナシ獨リサビシク暮ストキハ友ヲ撰ブニ遑アラズ故ニ  
平日ハ汚ナキ獸トテ賤シメ嫌フ者ニテモ時トシテハ人

ノ用ヲ為ス事アリ如何デ罪ナキ動物ヲ無理非道ニ扱フ可  
ケンヤ

第二章親類ニ交ル心得ノ事

親類好身ノ者ニ交ルニハ深切ヲ盡サズルベカラズ父母兄  
弟ハ親類ノ中ニテ格別ナルモノナリ我身ノ稚キ時ニハ父  
母我ニ食ヲ與ヘ父母我ニ著物ヲ著セ千辛萬苦心ヲ用ヒテ  
我ヲ教育セリ若シ父母ノ恩愛ナカリセバ我身ハ早ク命ヲ  
モ保ツコト能ハザリシ筈ナリ故ニ人ノ子タル者ハ父母ノ  
大恩ヲ忘ルベカラズ父母ヲ親マザルベカラズ父母ノ為ニ  
カヲ盡サズルベカラズ父母道ヲ以テ我ニ命ズルコトアレ



童蒙新章卷一  
バ唯其命ニ従フノミナラズコレヲ聞テ悦バザルベカラズ  
兄弟ハ同ジ竈ノ食ヲ喰ヒ同ジ遊ニ戯レテ父ヲ共ニシ母ヲ  
共ニシ共ニ一家ニ生長シタル者ナレバ互ニ相親シムベシ  
若シ然ラズシテ兄弟ノ仲アシク喧嘩ナドスルコトアレバ  
世ノ中ノ善人ハ其舉動ヲ見テコレヲ嫌ヒコレヲ惡ミ天理  
ニ背ク惡人トテ親シム者ハナカルベシ且又兄弟睦シクス  
レバ成人ノ後相互ニ其幸ヒヲ受クベキガユエニ稚キ時ヨ  
リ心ヲ用ヒテ何事ニ由ラズ互ニ情ヲ深クスベシ

イ鼠其親ヲ負フ事

人ノ賤シミ嫌フ獸ヲ見テモ親孝行ノ教トナルコトアリ家

倉船ナドニ鼠ノ數次第ニ増シテ大ナル害ヲ為スコトアリ  
斯ル場合ニハ鼠ヲトシテ用ル歟或ハ毒ヲ以テコレヲ殺シ  
其害ヲ除カザルベカラズ或時亞米利加ノニウヨルクヨリ  
葡萄牙ノリスボンヘ酒ツミニ行ク船アリ船中俄ニ鼠ノ數  
殖エテ船ノ食料ヲ喰ヒ道具ニ疵付ケ害ヲ為スコト甚グシ  
ケレバ船ノ者ハ大ニ怒リヨキ機會ヲ得テコレヲ狩盡サン  
ト決定シ船モ無難ニリスボンノ港ニ着ケレバ船將ノ差圖  
ニテ船ノ底ニ硫黄ヲ燃シ其煙ニ堪ヘズシテ方々ノ穴ヨリ  
逃出ス鼠ヲバ殘ラズ打殺セシガ後ニ残りテ一足ノ鼠其背  
ニ大ナル鼠ヲ負フテ甲板ノ上ニ逃出セリ船ノ人々ハコレ



ヲ異ミ見ルニ背ニ在ル鼠ハ白キ毛ヲ被リ眼モ見ヘザル老  
鼠ナレバ扱コソ此老鼠ハ彼若キ鼠ノ親ナルベシトテ忽チ  
慈悲ノ心ヲ生ジ假令ヒカズナラヌ獸ニテモ其親ニ孝行ヲ  
盡ス有様ヲ見テハコレヲ殺スニ忍ビズニ足共ニ命ヲ助ケ  
テ其場ヲ逃ガシタリト云フ

○アナピアストアムヒノムスノ事

火山トハ其頂キニ洞穴アリテコレヨリ煙ヲ出シ焰ヲ噴キ  
時トシテハ大石小石或ハ石土ナドノ解タル熱湯ヲ噴出シ  
テ恐ロシキ害ヲ為スモノナリ伊太里ノシ、リニエトナト  
云フ山アリ歐羅巴第一ノ火山ナリ今ヲ去ルコト数千年或

ル時此火山ノ破裂セシコトアリ一天俄ニカキクモリテ山  
ノ頂キヨリ火焰ヲ噴出シ土石ヲ飛バシ火ノ粉ハ八方ニ散  
ジテ天ヲ覆ヒ恰モ火ノ雨ノ降ルガ如ク人家ヲ暴ラシ人ヲ  
殺スコト其數ヲ知ラズ近村ノ人々ハ此天災ヲ遁レンガ為  
各其家ノ重寶ヲ負フテ思ヒクニ立退キシガソガ中ニアナ  
ピアス及ビアムヒノムスト云フ二人ノ若者アリ其負フ所  
ノ品物ヲ見ルニ餘ノ人トハ大ニ異ナリ二人ノ背ニアルモ  
ノハ金銀財寶ニアラスシテ年老タル親ナリ世ノ人々其舉  
動ヲ譽サル者ナク其心意ニ感心セザル者ナカリシトゾ扱  
此兩人ノ立退キシ路ニハ幸ヒニシテ火ノ粉ノ降ルコトモ



ナク火山ノ騷動鎮リシ後ニ近邊ノ地ハ盡ク荒レ果テ、草  
 木ノ苗モ盡キタルニ唯此二人ノ通行セシ鬼ノミ天災ヲ免  
 カレテ田畑モ舊ノ如クナリシニ由リ其時代ノ人ハ固ヨリ  
 無學ニシテ妄ニ物ヲ信ズルトハ虽ドモ其心律義ナレバ彼  
 ノ田畑ノ無難ナリシハ兩人ノ孝徳天ニ感通セシ靈驗ナリ  
 トテ一心ニコレヲ信仰シ此土地ヲ孝徳ノ畑ト名ケテ萬代  
 ノ末ニ至ルマデモ其譽ヲ遺セリ

⑧歴山王母君ニ事ル事

父母ノ心宜シカラズレテ無理ヲ云フトモ子タル者ハコレ  
 ニ堪ヘ忍ビテ尚モ孝行ヲ盡サザルベカラズ

往昔マセドニヤ國ノ大王アレキサンドル

歴山王ノ母君  
 事ナリ

アリシピアスハ性質姦毒シクシテ温順ナラズ大王ヲシテ心  
 配セシムルハ度々ノコトナレドモ王ハ常ニ逆ラハズシテ  
 コレニ事ルコト厚シ亞細亞洲ヲ征伐セシトキモ敵地ヨリ  
 分捕ノ品物ヲ母君ノ許ヘ贈リ其時ノ手紙ニ留主中國ノ政  
 事ハ大臣アンナペイトルヘ任セ母君ニテ彼是ト世話シ給  
 フコト勿レトノ趣キヲ申贈シニ母君ヨリノ返書ハ嚴シキ  
 文言ニテ迎モ大王ノ意ニ順フ様子アラザレドモ王ハヨク  
 堪忍シテ怒ノ色ヲ顯サズ再ビ母君ヘ贈ル返書ノ中ニモ絶  
 テ荒々シキ文句ヲ用ルコトナシ其後母君ノ慢心マスク増



長シテ國家ノ大害ヲ為サントセシ時アンチペイトルヨリ  
歴山王ヘ書面ヲ上ツリテ母君ノコトニ付痛ク訴ヘケレバ  
大王ハ其書ヲ開キ見テ更ニ驚ク氣色モナクアンチペイト  
ルハ未ダ朕ガ心ヲ知ラザルナリ斯ル書面ヲ幾百通贈ルト  
モ母ノ涙ノ一滴ヲ灌グバ其字ヲ消シテ反古ト為スニ足レ  
リトノミ云ヘリ

②フレデリッキ其扈從ヲ憐ム事

普魯士ノ大王フレデリッキ或ル日其居間ニ居リ鈴ヲ鳴ラシ  
テ家來ヲ召シタレドモ返事スル者ナキニ由リ親カラ襖ヲ  
開キ見レバ兼テ扈從ノ役ヲ勤ル一人ノ家來椅子ニ寄テ馳

レリコレヲ起サントテ側ニ行キシニ扈從ノ杖ヨリ手紙ト  
思ボシキ書付ノ端見ユレバ不圖好事ノ餘ニ其中ヲ見テヤ  
ランモノヲト思ヒ物靜ニコレヲ取テ開キ見レバ在所ノ老  
母ヨリ扈從ヘ贈リタル書ニテ其文言ノ大意ニ多カラヌ給  
金ヲ分ナテ贈リ吳シ段黍ケナシ老ノ身ノ我等ヲ助ルヤサ  
シキ心底ハ禮云フニモ尚アマリアリ汝ノ為ニ天ノ幸ヒテ  
祈ルト記セリ王ハ其終居間ヘ返リ金子ヲ一包出シテ其手  
紙ヘ卷キ扈從ノ杖ニ入レテ復居間ヘ入り強ク鈴ヲ鳴ラシ  
ケレバ扈從ハ驚キ馳テ覺マシテ御前ニ來リシニ君ノ仰ニ  
汝ハヨク馳レリトノ言葉ニ扈從ハ恐レ入り頻リニ詫ヲ述



ベテ手持不沙汰ノ余リ手ヲ杖ニ入レバコハ如何ニ大金ノ  
 包アリコレヲ取出シテ面ノ色モ死セルガ如ク涙ト共ニ一  
 言ノ言葉モナシ「フレデリック」ハ慙ト素知ラヌ体ニテ何事ナ  
 ルヤ痛鬼ニテモアリヤト尋子給ヒシニ扈從ハ君ノ足下ニ  
 打伏シ何人ノ所為ニヤ我身ニ惡名ヲ被ラセテ罪ニ陷イレ  
 ントノ惡計此杖ノ金ハ夢々身ニ覺ナキ品ナリト云ヒケ  
 レバ大王笑ヲ含ミ汝恐ル、コト勿レ天ハ睡眠ノ間ニ幸ヒ  
 テ授ルコトアリ此金ハ汝ノ母へ贈リ朕ノ名ヲ以テ汝ガ母  
 ノ幸ヒヲ祈レ此行末ニ至ルマデモ汝母子ノ二人ハ朕ガ心  
 ニ留テ扶助スベキナリト云ヘリ

⑥葡萄牙ノ兄弟死テ争フ事ハ今ハ定ムル事ナシ  
 今ヲ去ルコト三百五十年ノ頃ニハ葡萄牙ノ勢ヒ盛シニ  
 シテ世界中ノ鬼々ニ飛地ノ領分ヲ支配シ中ニモ東印度ノ  
 「ゴナト」云フ鬼ハ高賣繁昌ノ場所ナリ或ル時葡萄牙ノ都「リ  
 スボン」ヨリ數艘ノ賣船出帆シテ「ゴナト」方へ赴キケルソガ  
 中ニ乗合千二百人計リノ大船一艘アリ出帆ノ始ハ順風ナ  
 リシガ亞非利加洲ノ南ナル喜望峰ヲ廻リテ北東ニ舵ヲ取  
 リ直シ印度ノ地方ヲ指シテ走ル海上流テ水底ノ岩ニ乗上  
 ガ忽チ水船此爲リテ今モ沈マシトスル有様ナレバ船將  
 ハ手早ク端舟ヲ卸シ有合ノ食料ヲ積込デ乗合ノ人十九人



ト共ニ此小舟ニ飛乗リ際限モナキ印度ノ大海ニ乗出シタ  
 リサレドモ此小舟ニ磁石ノ用意アラザル舟ノ方角モ  
 定ムベカラズ食料モタエムニテ僅ニ露ノ命ヲ存スルノミ  
 飲水ノ用意ハ固ヨリ一滴モナク唯雨ノ便ニ生死ノ運ヲ任  
 セテ何處トモナク漂ヒツメ彼ノ本船ノ方ヲ脉レバ跡ニ残  
 リシ千余人其行方モ白波ニ沈ミシ船ノ痕モ見ズイト物ス  
 コキ心地ナリ○二十人ノ者ハ命ヲ限リニ船ヲ漕ギ其艱苦  
 譬言ン方ナシ四日ノ間アチコチト漂ヒシナレドモ更ニ地方  
 モ見ヘズ船將ハ平生ヨリ身ノ作り弱ク此艱難ニ堪ヘズシ  
 テ其日遂ニ落命セシガ跡ニ殘レル十九人今ハ重立チ差畵

スル者モナク皆口々ニ自分ノ所存ヲ述ベテ更ニ議論ノ止  
 ムコトナケレバ一同相談ノ上ニテ其内ノ一人ヲ撰デ船將  
 トナシ萬事此人ノ命ニ從フベシト約束ヲ定メタリ斯クテ  
 追々日數モ重ナリ食料ハ次第ニ減ズルニ付船將ヨリ説テ  
 發シテ云フヨフハ限アル食料ヲ日ニ喰盡シテ共ニ空シク  
 餓死センヨリセメテ今ヨリ覺悟ヲ極メ此人數ノ半分ニテ  
 モ命ヲ全フスル道ヲ求メテ惣人數一様ニ闔テ取り其順番  
 ニ從フテ一ヨリ三、五ヨリ七ト三人ヅ、省キ四番目ニ當リ  
 シ人々ヲ海ニ沈メテ食料ノ儉約ヲ為サバ如何ト相談シケ  
 レバ何レモ此義ニ同意シ惣人數十九人ノ内ニ僧一人大工



一人アリ僧ハ此人々ノ最後ヲ見送ル役前ナレバコレヲ殺  
ムベカラズ大工ハ舟ノ破損ヲ繕フ職ナレバ此亦殺スベカ  
ラズトテ先ヅ此兩人ヲ除キ又船將モ獨勤ノ役ナレバ右兩  
人ノ者ト同様ニ闖ノ仲間ヲ除クベシト云ヒケレバ船將ハ  
容易ニ聞入レズ稍暫ク押合ヒタレドモ遂ニ大勢ノ説ニ從  
テ闖ヲ外レ全ク闖ヲ取ル可キ者十六人其内ニ死スベキ者  
四人ノ割合トナレリ

レントスルヲ見テコレニ抱付キ兄上ニハ妻子モアリ外ニ  
又三人ノ妹ヲデモ世話シ給フ身ノ上我等ハ獨身ノコトユ  
エ假令ヒ今死スルトモ死後ニ難波スル者モアラザレバ何  
卒君ノ身代ニ立テ給ヘト涙ニムセビ云ヒケルニ兄ハ其情  
ニ感ジテ共ニ涙ヲ流シ身代ニ立タントノ深切ハ辱ケナシ  
ト虽ドモ人ヲ殺シテ身ヲ救フハ大惡不道マシテ親シキ弟  
ヲ如何デ我身ニ代スベキヤトイヘド此方ハ聞モイレズ兄  
弟互ニ死ヲ爭ヒ果テシモアラズ見ヘケレバ船中ノ人々モ  
其間ニ這入テ爭ヲ解カントスレドモ力ニ及バズ唯傍ヨリ  
觀ルノミ稍暫クシテ兄ノ云フヨフハ逆モ叶ハヌ我命ナレ



バ死後妻子ノ養育ハ汝ニ頼ミ且我家産ヲ以テ妹ノ世話ヲ  
モ汝ニ任スベシト懇ニ理解スレドモ更ニ承知スベキ様子  
ナケレバ今ハ兄モセンカタナク不本意ナガラモ弟ノ心ニ  
任セテ遂ニコレヲ海ニ投ジタリ  
此若者ハ兼テ水練ノ名人ナレバ忽チ船ニ游付キ其舵ニ取  
付キシニ舟ノ上ヨリ鐵ヲ以テ其手ヲ切放シ又水ニ落チタ  
レドモ暫ク呼吸ヲ次ギ其片手ニテ舟ニ取付ク處ヲ又鐵ニ  
テ切放サレ最早望ナ絶果ヌレドモ尚モ水ニ沈ミカ子拳ヲ  
キ手ト足トニテヨク体ヲ支ヘテ面ダケハ水ノ上ニ見ハレ  
手ノ切口ヨリハ紅ノ血ヲ吹出シ今ニモ絶入ラントスル其

有様ハ實ニ目モアテラレヌ次第ナリ船ノ人々ハコノ風情  
ヲ見テ又其人物ノ艶シキ心底ヲ考フレバ誰カ心ヲ痛メ  
チラン船中一度ニ聲ヲ揚ゲ彼人ヲ助ルモ唯一人ノコトノ  
ミコレヲ助ケヨト言葉ト共ニ舟ヲ近ヅケコレヲ引揚テ  
介抱ナシ其夜モ終夜漕ギ通シ翌曉ニ至テ始テ地方ヲ見出  
セリ是ハ亞非利加洲ノモザンビクナリ船中一同ノ悦ビ思  
ヒ見ルベシ先ヅ此地ニ上陸シ本國ヨリ後ニ出帆セシ類船  
ヲ待合セコレニ乗テ難ナクゴフニ着セント云フ  
右ハリスコウテント云フ人ノ記事ナリ此人ハ當時モザン  
ビクニ居リ現ニ此漂流人ニ面會シテ其物語ヲ聞シ人ナリ



第三章 貴キ人ニ交リ賤シキ人ニ交ル心得ノ事

世ノ中ノ仕事ハ難キト易キトノ差別アリ易キ仕事ヲ為スニハ格別ノ才智ナクシテ叶フ事ナレドモ難キ仕事ヲ為シニハ才智モナカルベカラズ又其道ノ執行ヲモセザルベカッズ其難キ仕事ヲ為ス者ヲ名ヅケテ身分重キ人ト云ヒ易キ仕事ヲ為ス人ヲ名ヅケテ身分輕キ人ト云フ是即チ貴賤ノ別ナリ故ニ學者医者ナドハ大抵才智アリテ幼少ノ時ヨリ其道ノ教ヲ受ケタル者ナレバ町人ヨリモ身分重シ町人ハ又其高賣ヲ為スニ學者醫者ナドノ才智ナクシテ叶フベキナレドモ日傭人足ニ較レバ其身分重シ日傭人足ナド

人仕事ハムツカシキコトモナク唯手足ノ力ヲ用ルノ町人又ハ職人ノ内ニモ元手ヲ多ク貯ヘテ大勢ノ人ヲ使フ者ハ世ノ為ニ大ナル仕事ヲ為スユエ其身分重シト云フベシ又田地ヲ多ク所持シ其地代ニテ活計ヲ立ル者アリコレヲ地主ト唱ヘ矢張大町人ノ類ニテ其身分重シト云フベシ又宗旨ノ事ニ関リ教化ヲ宜ルガ為ニ身分ノ重キ者アリ國ノ政事ヲ評議シ公事訴訟ヲ捌クガ為ニ身分ノ重キ者アリ即チ寺ノ坊主政府ノ役人ナドノ類ハ身分重キ者ナリ右ノ次第ニ由リ世ノ中ニ格式位ナルモノ出来テ此人ハ彼人ヨリモ貴シト云フコトアリ故ニ世ノ人々自分ヨリ目上



ノ人モアリ目下ノ人モアリ或ハ自分ト同ジ格式ノ人モアリ故ニ賤シキ人ハ貴キ人ニ對シテコレヲ敬フコト固ヨリ當然ノ理ナリ殊ニ其相手ノ貴人タル者其身代ノ富メルガ為ニ貴キニアラズシテ其才徳人ニ勝レ或ハ重キ公用ヲ勤ルガ為ニ貴シトアレバ取分テコレニ尊恭ヲ盡スベシ然レドモ此尊恭ヲ盡ストハ身ヲ賣リタル者ノ主人ニ仕フルガ如クスルノ趣意ニアラズ又目上ノ人ニ諂ヒ諛ルノ趣意ニモアラズ何程賤シキ者ニテモ先ヅ自分ノ身ヲ重ジテコレヲ大切ニセザルベカラズ既ニ我身ヲ重ズルトキハ犬猫ノ人ニ媚ビ戯ル、ガ如ク同類ノ人ニ向テ賤シキ舉動ヲ為ス

可キヤ固ク自カラ禁ゼザルベカラズ

身分重キ人ハ目下ノ者ニ對シテ妄ニ其尊恭ヲ促スコトナク却テコレヲ丁寧ニ取扱フベシ貴キ人ニテモ賤シキ人ニテモ重キト輕キトノ差別コフアレ天地ノ間ニ生レシ人トシテ考フレバ同ジ世界ノ兄弟ニシテ銘々身分ノナキ者ハナシ故ニ貴キ人ノ方ヨリ上ヲ敬マヘト責レバ賤シキ人ノ方ヨリモ亦下ヲ敬マヘト責ルノ理アリ自分ノ位貴シトテ目下ノ者ヲ妄ニ下ゲシメ賤シンズルハ唯己ガ其高位ニ居ベキ程ノ價ナキ徴ナレバ自カラ身ノ耻ヲ示スニ異ナラズ貴キ位ニ居テ常ニ下人ヲ罵リ付ケ其心中ヲ訴ルコトヲモ



得セシメザルトキハ必ズ不平ヲ抱テ上ヲ見ルコト仇敵ノ  
如クスルモノナリ  
家来トハ給金ヲ取テ定リタル期月ノ間主人ノ為ニ働ク者  
ナリ故ニ家来ノ職分トシテハ此働ヲ為シ且其主人ヲ敬フ  
ベシ主人ノ職分トシテハ其家来ヲ深切ニ取扱ハザルベカ  
ラズ都テ家来ヲ召使フニハ容体ヲシク構ヘ權柄ヲ以テ追  
使フヨリ情ヲカケテ丁寧ニ扱フベシ然ルトキハ家来モ必  
ズ主人ヲ親シミテヨク骨ヲ折リ唯給金ノ為ニ働クノミニ  
アラズシテ親シキ情合ヲ以テ勤ルヨフニナルモノナリ情  
深キ主人ノ為ニハ家来ノ一命ヲ抛ツコトモアリ古今其例

少カラズ

文明開化ノ國ニテハ家来ヲ抱ルニ大抵一年ヲ限トシ此年  
期ヲ終レバ平人ニ返リテ其身分ノ自由ナルハ主人ニ異ナ  
ラズ然レドモ國柄ニ由テハスレイブト唱フル奉公人ヲ使  
フコトアリスレイブトハ其身ヲ主人ヘ賣リ主人ノ勝手ニ  
使ハル、奉公人ト云フ義ナリ此奉公人ハ多ク亞非利加洲  
ヨリ連レ來ル黒奴ニテ主人ノ扱甚ダ宜シカラズ恰モ牛馬  
ノ如クコレヲ賣買シ子ヲ生メバ其子モ亦スレイブトナシ  
主人ノ思フ儘ニ召使ヒ當人ヨリ身受ノ金ヲ拂フマデハ其  
身ノ自由ヲ許サズ抑モ人トシテスレイウヲ使フベキ理ハ



アラザレドモ若シ此天理ニ戻テコレヲ召抱ルコトアラバ  
成ルベキ丈ケ深切ヲ盡シセメテ其身ノ不幸ヲ輕クスベシ  
スレイブニテモ恩アル主人ノ為ニハ忠義ヲ盡スモノナリ

①シ、リイ國ノ君アルホンソノ事

シ、リイ子イプル兩國ノ君アルホンソハ其國ノ民百姓ヲ  
惠シミ寛仁大度ノ評判アリシ人ナリ  
シ、リイノ國ニ於テ合戦ノ時敵ニ妨ゲラレテ河ヲ渡ルコ  
ト艱ハズ終日河ノ畔ニ陣ヲ取テ兵糧ノ盡キタルコトアリ  
シニ日暮ニ及ビ一人ノ歩兵蒸餅一切ニ「チイス」牛ノ乳ニテ  
製シタル物  
ヲ附ケ大根ヲ一切添テ持来レリ其日ノ有様ニテハ此品物

ハ余程結構ナル馳走ナレドモアルホンソハコレヲ辞退シ  
テ云ク數萬ノ軍勢今朝ヨリ食事セシ者ナクシテ其勇マシ  
キコトハ余ニ異ナルコトナシ然ルニ今我獨リ此馳走ヲ受  
ルニ忍ビズト

又或ル時アルホンソ獨リ馬ニ乘リテカンパニヤト云フ處  
ヲ通行セシトキ小荷駄馬ヲ牽イテ傍ヲ行ク者アリシガ其  
馬誤テ深キ泥へ足ヲ踏込ミタレバ馬奴ハ力ヲ盡シテ引出  
サントスレドモ叶ハズ往来ノ人ニ助ヲ求レドモコレヲ顧  
ル者モナキニ由リ遇然其側ニ騎馬ノ人在ルヲ見テ國王ト  
モ知ラズコレニ加勢ヲ求メシカバアルホンソハ直ニ馬ヨ



リ下リ彼ノ馬奴ヲ助ケテ其馬ヲ泥ヨリ引出セリ事既ニ終  
リテ後馬奴ハ妬テ其人ノ國王タルヲ知り大ニ驚キ王ノ前  
ニ平伏シテ頻リニ詫シケレバ王ノ云ヘルニハ汝ハ唯人ニ  
加勢ヲ求タルノミ罪ヲ犯シタルニ非ザレバ詫スルニモ及  
ハズト此風聞世間ニ流布シ以前ヨリ國王ニ敵對セシ者モ  
自カラ歸服シタリト云フ

㊦主人ノ言葉宜シカラズシテ譏ヲ受ケシ事

アンワシト云ヘル人東國ニ旅行シテ家ニ歸リシ時其旅行  
ニ召連レシ家來暇ヲ願ヒケレバ主人ハコレヲ怪ニ何故斯  
ク俄ニ暇ヲ求ルヤト尋ルニ家來ノ云ク長キ旅行ニ様々ノ

用事モアリ又危キ艱難モ少ナカラス此用事艱難ハ一様ニ  
主従二人ノ身ニ關ルコトナレドモ此事ニ付主人ハ唯權柄  
ヲ以テ云付ルバカリニテ艶サシキ言葉トテハ一言モ聞シ  
コトナシ此度暇ヲ求ルノ趣意ハ唯此一事ノミニテ外ニ子  
細モアラズト

㊦召使ノ女マリノ事

阿爾蘭ノ貴人ニ二人ノ娘アリ姉ヲエミリト云ヒ妹ヲポシ  
フシビト云フ姉妹共ニウヲフルスノ國ニ來リ草舎ヲ結ビテ  
住居シ本國ヨリ連來リシ召使ノ女マリト云ヘル者ト主従  
三人ニテ睦シク日ヲ送リケリ此マリハ幼稚キ片ヨリ兩人



へ事へ性質律義ニシテ主人ニ深切ヲ盡シ生涯奉公シテ身  
ヲ終リシ者ナリ兩人モ亦マリヲ親シシ其交ノ有様主従ト  
ハ見ヘズシテ恰モ仲ヨキ友達ノ如シ三人ノ婦人追々老年  
ニ及ブトキ主人二人ノ工夫ニテ三角三面ノ石碑ヲ作りラ  
レゴルレント云フ寺ノ境内ニコレヲ建テ三人共死後ハ此  
石碑ノ下ニ埋マリ其面ニ碑ノ銘ヲ記ルズ積ナリ斯ク歲月  
ヲ送ル間ニ召使ノマリ先ツ病死シケレハ約束ノ如ク此石  
碑ノ下ニ葬リ主人二人ニテ碑ノ銘ヲ作り石碑ノ一面ニコ  
レヲ彫付ケタリ其後数年ノ間ニ主人モ兩人トモ病ニ罹テ  
死シ何レモ彼ノ石碑ノ下ニ葬リテ三人其穴ヲ同フシ石碑

ノ三面ニ三人ノ銘アリ此有様ヲ見ルニ三人ノ身分ハ固ヨ  
リ同ジカラズ其一ハ家来ニシテ其二ハ主人ナリサレドモ  
家来ヨリ深切ヲ盡セバ主人モ亦コレヲ重ンジ誠ヲ以テ互  
ニ縁ヲ結ビ死後ニ至テハ少シモ貴賤輕重ノ痕ヲ見ザルナ  
リ  
英吉利ノ國王第三世ジヨウジト云フ君ノ御代ニ一人ノ宮  
女アリ御殿ニ宮仕レテ心意ヤサシク君ニ忠義ヲ盡セシカ  
バ其死セシ後ニ至リ國王ノ命ヲ以テ石碑ヲ建テシメコレ  
ニ碑ノ銘ヲ記シテ親愛追慕ノ情ヲ表シタリト云フコトア  
リ



二 プランコス及び其家来ノ事

往古羅馬ニ於テヲクタ井スレピドスアントニスノ三人政  
 府ノ權柄ヲ握リシトキ其以前大統領タリシプランコスハ  
 禍ヲ避ケテ出奔シタリシニ由リ政府ハ其家来ヲ捕ヘ拷問  
 ニカケ主人ノ所在ヲ尋レドモ白上セズ政府ハ益怒テ又新  
 ニ拷問ノ用意アルヲ聞キ傳ヘプランコスモ斯ル忠臣ヲ殺  
 シテ自カラ死ヲ免ル、ヲコハ口ヨシトセズ乃チ自カラ名  
 乗テ刑罰ニ就シコトヲ訴出ケレバ政府ノ人モ其君臣ノ義  
 氣ニ感ジテ遂ニプランコスノ罪ヲ免シタリ當時天下ノ人  
 コレヲ評シテ云ク唯此君ニシテ此臣アリ唯此臣ニシテ此

君アリト

ホ 忠臣其身ヲ狼ニ投ル事

歐羅巴洲ノ東北ニアルカスパシヤンノ山ニハ狼多ク殊ニ  
 寒氣甚ダシキ時ハ其勢猛クシテ人ヲ害スルコトアリ頃ハ  
 千七百七十六年ノ冬ポドスキト云ヘル貴族其奥方ト共ニ  
 墮地利ノ都ウ井ンナヨリカラコウヘ行クトキガトフルノ  
 近邊ニテ一羣ノ狼ニ出逢ヘリ此君ハ道中二人ノ家来ヲ召  
 連レシガ此日其一人ハ宿次ノ馬ヲ用意スルタメ先キニガ  
 トフルニ遣ハシ今一人ノ家来ノミ馬ニ乗テ主人夫婦ノ馬  
 車ニ從ヘリ然ルニ彼ノ狼ハ次第ニ人ニ近寄ルニ付キ主人



二請ヒ已ガ乗ル所ノ馬ヲ解テ狼ニ與ヘコレヲ喰フ間ニ此  
 場所ヲ駈抜ケナバ如何ト云ヒケレバ主人モコレヲ許セシ  
 二由リ乃チ主人ノ馬車ノ後ノ方ニ飛乗テ自分ノ馬ヲ放チ  
 シカバ數十ノ狼ハ忽チコレニ飛掛リ生タル馬ヲ微塵ニ喰  
 裂ク其間合ニ馬車ノ三人ハ馬ニ鞭チ最早程近ク「ザトフル  
 二馳付ンモノヲト氣ヲ急ゲドモ馬ハ疲レテ走ルコト能ハ  
 ズ狼ハ既ニ一疋ノ馬ヲ喰ヒ其生血ノ味ヲ食シメテ益アラ  
 ガチ今ニモ馬車ニ追付ントスル勢ニテ進退コ、ニ窮ルノ  
 場合ニ至リ彼ノ家来ノ云ヘルニ今此難ヲ遁ル、ニハ唯一  
 ノ路アルノミ然自カラ身ヲ投テ狼ニ當ラン我死後ニハ君

ヨク我老父ト妻子トヲ養ヒ給フヤ我身狼ニ喰ハル、間ニ  
 君ハ逃ゲ給フベシト説破詰リレロ上ニ主人モ斯クト返答  
 ノ言葉ハ口ニ出兼シガ迎モ今三人共ニ助カルベキ路ハア  
 ラズサレバ外ニセン方ナシトテ心ナラズモ家来ノ意ニ任  
 セテ死後ニハ必ズ其家族ノ者ヲ扶助スベシトノ趣ヲ誓ヒ  
 ケレバ其言葉ト共ニ馬車ヨリ下リテ狼ノ餌トナレリ主人  
 夫婦ハ危キ場合ヲ逃ノビテ難ナク「ザトフル」ニ着レ歸國ノ  
 後ハ約束ニ従テ此忠臣ノ家族ヲ手厚ク取扱ヒレト云フ

第四章 働ク事

造物主地球ヲ造リテ人ノ快ク生き存フルタメニ入用ナル



品物ハ盡ク此地球ニ生ズベキ筈ノ仕裁ニナレタレドモ入  
ノ力ヲ用ヒテ天ヲ助ケザレバ此品物モ甚ダ少シ或ハコレ  
アルモ入ノ力ヲ加ヘザレバ其物ノ用ヲ爲サズ五穀ヲ得ン  
トスルニハ種ヲ蒔テコレヲ刈ラザル可ラズ金ノ器ヲ作ル  
ニハ其地金ヲ山ヨリ掘出シテコレヲ製セザルベカラズ又  
物ヲ作ルニハ毛麻綿ヲ紡ギテコレヲ織ラザルベカラズ此  
等ノ仕事ヲ勉ルニ由テ人々ノ身代ヲモヨクシ隨テ一國ノ  
富ヲモ致スナリ故ニ身体弱クシテ仕事ニ堪ヘザル者歎或  
ハ年若ノトキニ働テ既ニ富ヲ致セル者歎此ニテ除クノ外  
ハ凡ソ人トシテ食物ヲ食ヒ衣服ヲ着ル等已ガ願フ所ノ物

ヲ得ントナラバ自分モ亦世間ノタメニ働キ一人前ノ仕事  
ヲバ引請ザルベカラズ  
一國ノ人民仕事ヲ爲サズレテ生レシマ、ニ日ヲ送り野ニ  
生フ草木ノ實ヲ拾ヒ山ニ住ム鳥獸ノ肉ヲ食ヒナドスル者  
ヲ蠻野ノ民ト云フ亞米利加ノ土人亞非利加ノ南ノ方及ビ  
アフスタリア洲ノ土民等是ナリ此土民等ノ有様ハ實ニ  
傷ハシキモノニテ平生トテモコ、ロヨキ衣食ヲ得ズ饑饉  
ノ時ノ用意モアラザレバ折々ハ餓テ死スル者アリ斯ル蠻  
野ノ國ニテハ人ノ數極テ少ク英吉利ノ一里四方ノ土地ニ  
人別一人ヨリ多カラズ



國ノ人民仕事ヲ勉レバ其暮向ノ有様モヨキ方ニ赴キ牛羊  
ヲ飼ヒ田地ヲ耕シ家ヲ建テ、コレニ住ヒ船ヲ造テ他國ノ  
産物ヲ取寄セ朝夕ノ便利ヲ達シ生涯ノ安樂ヲ受ルナレド  
モ蠻野ノ民ハ此味ヲ知ラザルナリコレヲ一口ニ云ヘバ人  
ノ福ト禍ハ其仕事ヲ勉ルト勉メザルトノ割合ニ在ルナリ  
日耳曼瑞西佛蘭西荷蘭英吉利ノ人ハ世界中ニ最モ仕事ヲ  
勉ル民ナリ故ニ其暮向ノ有様モ亦世界第一ナリ此諸國ニ  
於テハ一里四方ノ土地ニ百人乃至三百人ノ人別アリ右ノ  
次第ニ由テ考レバ國ノ人民仕事ヲ勉レバ人別モ増シテ樂  
多クコレヲ勉ザレバ人別ハ減シテ苦ハ多キコト明ナリ

右ニ云ヘル議論ハ唯國々大勢ノ人ニアテハマルノミナラ  
ズ一人ノ身ノ上ニテモ同様ノ訣ナリ人ト為リテ此世ニ生  
レ何等ノ仕事ヲモ勉メズ兎角同類ノ人間世界ノ為ニ益ヲ  
為スコトヲ知ラザル者ハ自カラ禍ヲ招テ困窮ニ陥ル者ト  
云フベシ都テ職業アル人ハ其事ニ出精シテ耻ヲ知リ義理  
ヲ重シズルト否ザルトニ由リ丁度其割合ニ應ジテ身ノ行  
末ノ浮沈モアルモノナリ耻ヲ知リ義理ヲ重シズルトハ人  
ノ為ニ益ヲ為ス抑モ天ハ濫ニ福ヲ授ル者ニアラズ唯人々ヲ  
シテ自カラ働テ此福ヲ取ラシムルノ仕掛ヲ設ケ且人ノ此  
働ヲ為スニ當リコレガタメ福ヲ得ルト得ザルトニ拘ラズ



唯其働ノミニテモ自カラ當入ノ益ヲ為シ當入ヲレテ愉カ  
ラシムル趣向ヲ設ケリ譬ヘバ人トシテ身ト心トヲ使ハザ  
レバ必ズ身体ヲ達者ニスルコト能ハズ働ノ人ニ益ヲ為ス  
證據ナリ又身ト心トヲ使ハザレバ人ニ樂ナシ働ノ人ニ愉  
キ證據ナリ然レドモ亦一方ヨリ論ズレバアマリ強ク働キ  
アマリ嚴シク勉強スルハ却テ宜シカラズ人ノ働其度ヲ過  
レバ体ノカヲ用ヒ尽レテ病ヲ起シ身ヲ懈ラセシ末ヨリモ  
却テ甚ダレキ禍ヲ蒙ルコトアリ一般ノ説ニ七日ニ一日ノ  
休息ヲ取り毎日十時ノ間働ケバ丁度人ノ身体ニ相應スベ  
シトナリ

① 百姓其子ニ遺言ノ事 寓言

或ル百姓病ニ罹テ全快ノ程モ覺束ナキニ至リツラク死後  
ノ事ヲ案ジテ農業ハ我生涯勉メレ仕事ナレバ子供等へモ  
此業ヲ継ガレテ出精サセタキモノト思ヒヌレバ乃チ工夫  
ヲ運ラレテ兄弟ノ子供ヲ呼ビ遺言シテ云ク汝等へ遺物ト  
シテ與フル物ハ我田地ト葡萄ノ畑トナリコレヲ汝兄弟ニ  
テ寄合ニ保ツベレサレドモ此田畑ヲ決シテ他人ノ手ニ渡  
スベカラズ其子細ハ田畑ノ外ニ余ハ別ノ寶物ヲ所持スル  
哉モ計リ難シ若シコレアラバ地面ノ下一尺ヨリ深カラザ  
ル鬼へ埋メ置キシ筈ナリト



子供等ハ此遺言ヲ聞キ病人ノ寶物ト云ヒレハ兼テ貯ノ金  
子ヲ畑へ埋メレニ相違ナシト思ヒ親父ノ死後ニ至リ兄弟  
カヲ合セテ其田地モ葡萄ノ畑モ隅々ニ至ルマデ鋤キカヘ  
シタリレガ一錢ノ金ヲモ掘出サズシテ一時ハ大ニ氣ヲ落  
シタレドモ斯ク地面ヲ鋤キカヘシタルニ由リ其年ノ作物  
ハ格別ニヨク實リ秋ノ收納ニ至テコレヲ見レバ真ニ寶物  
ヲ掘出セシニ異ナラザリレト

○ケレシシ魔法ヲ使フ事

往古ノ窮理家アリニノ書ニ云ク伊太里國ノ或ル村ニケレ  
シシト云フ百姓アリ此百姓ノ耕ヘス所ノ田畑ニハ作物常

ニヨク實リ遠方ヨリ見テモ鄰ノ畑ヨリ界ヲ分ケテ立派ナ  
レバ同村ノ百姓共コレヲ怪ミテ口々ニ云ヒケルニハ我々  
共ノ田地ハ斯ク不作ナルニケレシシノ作物ニ限リテヨク  
實ルベキ理ナシ何レニモ彼ガ魔法ヲ使フ所為ナルベシコ  
ノマ、捨置クベカラズトテコレヲ捕ヘテ裁判所へ引出シ  
タリ  
裁判所ノ役人ケレシシニ向テ罪ヲ責メ其申開ヲ為スヘシ  
ト云ヒケレバケレシシハ畏リテ筋骨逞シキ娘ノ子一人ト  
農業ニ用ル鋤鍬一揃ト牛一疋トヲ役人ノ前ニ差出シテ云  
フニハ此娘ハ畑ノ草ヲ取り糞ハ作物ニ肥シヲ施シ親子力



ヲ合セテ家業ヲ勉メ御覽ノ通り此農具ノ工合モヨク調ヒ  
 牛モヨク肥ヘタルコト近村ニハ其類ナシ桑ガ農業ニ用ル  
 魔法ハ唯コレノミ同村ノ人々モ桑同様ニ此魔法ヲ使ヒナ  
 ン作物ノヨク實ルコト我田地ノ如クナルベシトアレバ裁  
 判所ノ役人モ此答ニ感服シ實ニ明ナル申開哉トテコレヲ  
 譽メ農業出精ノ褒美ヲ與ヘテ返シタリトゾ

ハ出精スル大工ノ事

ク井シスカラシキ 英國ノニクレルクナル者アリ大工ノ職  
 地名

ヲ家業トセリ或ル時其處ノ裁判所ニ雇ハレテ役人ノ腰拭  
 ル臺ヲ作ルトキ別段ニ骨ヲ折テ其板ヲ丁寧ニ削リケレバ

朋輩ノ者共コレヲ見テ無益ノ手間ヲ費ストテ大ニ嘲リタ  
 リクレルクハ笑テ云ク此板ヲヨク削ルハ人ノ為ニアラズ  
 桑自カラ為ニスルナリ桑ハ生涯ノ中此臺ニ腰拭クベキ身  
 分トナラザレバ死セズト後果シテ其言ノ如シクレルクガ  
 性質ヨク物事ヲ勉テ耻ヲ知り人物重々シクシテ深切ナル  
 ニ由リ其為ス所ノ事一トシテ仕損ズルコトナク次第ニ獨  
 立ノ話計ヲ為スニ至リ身代ノ富ムニ從テ其人物モ亦自カ  
 ラ立上リ遂ニ其土地ノ裁判司ニ任ゼラレテ嘗テ自カラ削  
 リタル臺ニ腰拭タリト云フ

ニベンジャアミンシフランキリンノ事



ベシシヤアミン・フランキリンハ北亞米利加洲ボフストン  
ノ臘燭屋ノ子ナリ其父貧窮ニシテ其子ヲ活字版摺ル職人  
トナセリフランキリンハ讀書ヲ好ミ得ル所ノ金アレバ尽  
ク費シテ書物ヲ買フ程ノコトナレドモ唯書物ニ耽ルノミ  
ナラズ其活版ノ職ニモ亦ヨク出精シ平生ノ活計ニ儉約ヲ  
守リ徒ニ月日ヲ費セシコトナシ年十七歳ノ時ヒレデルヒ  
ヤニ行キケイメルト云フ人ト共ニ活字版ノ業ヲ開ケリ固  
ヨリ非九ノ才子ニテ其勉強モ一通リナラザレバ年ハ若シ  
ト雖ドモヨク文ヲ綴リ人ヲ驚ス程ノ名文ヲ作ルコトアリ  
或ル時ヒレデルヒヤノ奉行フランキリンノ書キシ手紙ヲ

見テ其文章ニ感服シ態々同人ノ旅宿ニ行テ自カラコレヲ  
迎ヘ私宅へ案内セシコトアリシト云フ○其後フランキリ  
ンハ英吉利ノ都ロンドンニ渡リ晷々ノ活版局ニ行テ其職  
ヲ勉メリ同局ノ職人ハ時々金ヲ費シテ酒ヲ飲ミ其心ヲ乱  
ルコトアレドモフランキリンハ一滴ノ酒ヲモロニ付ケザ  
レバ氣分ハイツモ爽ニシテ身体モ強ク貯ノ金ハ人ヨリモ  
多シ年二十歳ノ時ロンドンヨリヒレデルヒヤへ歸リ復彼  
ノケイメルト共ニ活版ノ仕事ヲ始メ益業ヲ勉テ懈ラズ毎  
日様々ノ仕事ニ氣ヲ配リ其傍ニ一枚ノ活版ヲ植ヘザルコ  
トナシ世上ノ人モフランキリンガ正シクシテ業ヲ勉メ何



事ヲ頼テモ間違ナク思ノマヽニ埒明クヲ悦デ頻リニ註文  
 スル者多ク家業益繁昌セリコレヨリフランキリンハ新聞  
 紙ノ出版ヲ始メ其文章妙ヲ盡シテ人ヲ悦バシメ天下一般  
 ニ流行シテ利潤ヲ得ルコト少ナカラズサレドモフランキ  
 リンハ錢ノタメニ行状ヲ殘ナハズ粗服ヲ着テ儉約ヲ守リ  
 外見ヲ憚ルコトナシ時トシテハ新聞紙ニ用ル紙ノ俵ヲ車  
 ニ積ミ自カラコレヲ押テ市中ヲ往來スル様ヲ見タル者モ  
 アリ新聞紙ノ出版モ既ニ繁昌シ次デ又文房具ノ商賣ヲ始  
 メ志アル人ト會社ヲ結デ多ク書物ヲ集メ「ドウア」リチヤル  
 ドアルマナックトテ表題セル書ヲ毎年一冊ツヽ出版セリ此

書ハ多ク人ノ心得トナルベキ事ヲ記セル名文ニテ大ニ世  
 間ニ益ヲ為セリ○フランキリンハ斯ク仕事ヲ勉メ數年ノ  
 間侍時モ暇ナシト雖ドモ亦一身ノ徳義ヲ脩ルコトヲ懈ラ  
 ズ年三十歳ノ時ニ至リ都下ノ人望ヲ得テ會議所ノ書記官  
 ニ命ゼラレ翌年ハ又立身シテ飛脚役所ノ拭トナレリ才徳  
 身ニ不足ナシト虽ドモ尚世ノ人ノタノニ益ヲ為スヲ以テ  
 已ガ役前ト思ヒ窮理學ノ社中ヲ結テ少年ヲ教ル大學校ヲ  
 開キ火災請合ノ法ヲ工夫スル等凡ソ「ヒレ」テルヒヤニ於テ  
 市中一般ノ仕事ニハフランキリンノ關ハラザルコトナカ  
 リシト云フ

大災請合ノ事ハ西洋旅  
 案内ノ下卷ニ詳ナリ



其後「フランキリン」ハ學術ヲ勉強シ千七百五十二年紙鳶ヲ揚テ夕立ノ雲ヨリ「エレキトル」ノ火花ヲ引キ電光ト「エレキトル」トハ同ジモノナリトノ事ヲ發明シコレヨリ「フランキリン」ノ高名世界中ニ鳴渡リ「エレデルヒヤ」ノ活版屋トテ「歐羅巴洲」ニテモ其名ヲ知ラザル者ナシ「エレキトル」ノコトハ「変地異ニ」社友小幡氏所著ノ天「詳ナリ」年既ニ老成ニ及ビ北亞米利加ノ諸州其本國ノ英吉利ト不和ヲ起シ數年ノ合戦ニテ遂ニ亞米利加ノ獨立ヲ成セシコトアリ此騒動ノ時ニモ「フランキリン」ハ亞米利加ノ謀主トナリテ其功少ナカラズ亞米利加新政府ノ使者ト爲リテ佛蘭西ニ行キ國王ニ拜謁シテ援兵ヲ求メシトキ談

判ノ賤シカラサルハ固ヨリ云フ迄モナク都テ其行狀手輕ニシテ沈着シ博ク物事ヲ知リテ明辨流ル、ガ如ク學者ノ才モアリ國ヲ治ルノ徳義モ備ハリ其高名ヲ聞キ其容貌ヲ見テコレニ心酔セザル者ナシ當時佛蘭西ノ人コレヲ評シテ云ク真人新世界ヨリ来リテ其靈ヲ顯ハスト新世界トハ「亞米利加」ヲ云フ古書ニ云ク事ヲ勉ル者ハ王ノ前ニ立メシト「フランキリン」ナドノ事ヲ云ヒシモノナラン往古東方ノ諸國ニ於テハ王ノ前ニ立ツヲ以テ上モナキ人ノ面目トナセリ今「フランキリン」ノ由来ヲ尋ルニ身ハ蠟燭屋ノ家ニ生レシト虽ドモ其



事ヲ勉ルノユエヲ以テ一生ノ間ニ家ヲ富マシ譽ヲ與カシ  
千萬人ノ上ニ擢シテタルハ所謂王ノ前ニ立ツノ面目ヲ得  
タル者ト云フベシ  
古今ノ英雄世ノ為ニ功ヲ立テシ者アレバ世ノ人コレヲ見  
テ其功ヲ立テシ所以ノ方便ヲ知ラント欲スルハ人情ノ常  
ナリ今フランキリンノ功ヲ立テシ方便ヲ聞カント欲スル  
者アラバ同人ノ書遺セシ文章ヲ尤ニ記シテコレニ答フベ  
シ即チフランキリンノ遺文ニ云ク富ヲ得ル道ノ易ク平ナ  
ルハ市ニ行ク道ノ如シ唯ニ言ヲ以テコレナ盡セリ儻ト儉  
約トナリ時ヲ費ス勿レ金ヲ費ス勿レ此二ノ者ヲ巧ニ用ミ

シハタラキトケンヤクトヲ棄レバ成ルベキ事ナシハタラ  
キトケンヤクトヲ守レバ成ラザル事ナシ少年ノ男子既ニ  
ハタラキテ且ケンヤクナラバ此外ニ富ヲ助成スモノハ綿  
密ト正直ノ二箇条ナリ勉強ハ恰モ幸福ヲ生ム母ノ如シ天  
ハ萬物ヲ人ニ與ヘズシテハタラキニ與フルモノナリ今日  
ト云フ其今日ノ内ニハタラクベシ明日ノ故障ハ測ルベカ  
ラバ汝モシ人ノ家来トナリテウノ主人ヨリナマケ者トテ  
叱ラレナハコレニ赤面セザルヤサレバ今汝ハ人ノ家来ニ  
アラズシテ自身ノ主人ナリ自カラソノ懈ルヲ咎テ自カラ  
コレニ赤面セザルベカラズ



○風阿里茶土ガ該ノ事フランキリンノ文

今政府ヨリ國中ノ人ニ命ヲ下ダシテ入々ノ毎日働タ時ノ  
間ヲ十二分チ其一分丈ケノ時ヲ運上トシテ政府ノタメニ  
働カシムルコトアラバ必ズコレヲ苛キ政府ト云ハンサレ  
トモ入ノ不精ハ政府ヨリモ尚苛キモノニテ運上ヲ取立ル  
コト政府ヨリモ尚重シ不精ノ甚タシキハ病ヲ招テ入ノ命  
ヲモ短クスル  
里茶土ガ該ニ云ク不精ハ猶錯ノ如シ錯テ膏ルハ摩テ  
耗ルヨリモ速シ○朝タニ手摩ル鍵ハ光リツ、  
又云ク存ラフル時コソ、人ノ命ナレ命ヲシクバ時ヲ棄ル

ナリハ○報

サレバ人ノ眠ニ時ヲ費スモ或ハ度ニ過ルコトアラシキ  
土ガ該尤ノ如シコレヲ忘ル、勿レ  
朝寐スル狐ハ鳥ニアツカス  
又云ク子ブタクバ飽クマデ子ブレ棺ノ中  
又云ク光陰果シテ無上ノ寶ナル半若シ夫レ然ラバコレ  
ヲ費スハ無上ノ奢ナリ○光陰一度去テ復タ返ラヌ○十  
分ト思ヒシ時モ其實ノ事ニ當レバ必ズ足ラザルモノナ  
リサレバ起テ事ヲ為セヨク其目途ヲ立テ、事ヲ為ス  
ベシ一心一向ニ事ヲ為セバ其事ヨク成テ混雜ナシ勉レ



バ何事モ易ク勉メザレバ何事モ難シ○朝寐シテ終日事  
 ノ跡ヲ追ヒ夜路走りテ追付モセズ○貧乏ノ走ルハイッ  
 モ速クシテ不精ノ歩<sup>フミ</sup>追付モセズ○仕事ヲバ追テ仕事ニ  
 追ハル、ナ○早ク寐子早ク起レバ智慧ヲ増シ身ハ健ニ  
 家ハ繁昌  
 ヨキ時節ヲ願ヒヨキ時運ヲ待ツトハ何事ナルヤ其意味解  
 シ難シ居ナガラ時節ヲ待ンヨリ己ガ働ヲ以テヨキ時節ヲ  
 造ルニ若カズ  
 里茶土ガ該ニ云ク我身ニテ我身ノ為ニ働クヲ誰ニ向テ  
 何ヲ願ハン○徒ニ時運ヲ待テ暮シツ、飢ノ境モ近寄ニ

ケリ  
 苦シマザレバ樂ヲ得ズ我ヲ助ル者ハ唯左右ノ手ノミ人々  
 必ズ田地ヲ持ツベキニモアラズ或ハ田地アルモ其運上甚  
 ダ高シ  
 里茶土ガ該ニ云ク身ニ職業ノ覺アルハ田地ヲ持ツニ異  
 ナラズ高賣ノ道ニ明ナルハ名利ノ泉ヲ得ル者ト云フベ  
 シ  
 然リト虽ドモ職業ノ覺アリテコレヲ勉メズ高賣ノ道ヲ知  
 テコレヲ行ハザレバ其田地モ其名利ノ泉モ身ノ運上ヲ拂  
 フニ足ラズ  
 身ノ運上トハ不  
 精ノ運上ヲ云フ  
 人トシテヨク其事ヲ勉レバ飢



寒ニ迫ラレ、ノ患ナシ

里茶土ガ諺ニ云ク飢ハヨク稼ノ門ヲ窺ヘド闕ヲ越テ内

ニ這ハラズ

家ニ寶アラザルモ他人ノ遺物ヲ受ケザルモ何ゾコレヲ患

ルニ足ラン

里茶土ガ諺ニ云ク勉強ハ恰モ幸ヲ生ム母ノ如シ天ハ萬

物ヲ人ニ與ヘズシテ働ニ與フル者ナリ

又云ク人ノ寐ル其間ニ深ク耕シテ多ク作りテ多ク收メ

ヨ

又云ク今日ト云フ其今日ノ日ニ働テ今日ノ仕事ヲ明日

ニ延スナ

又云クメリヤスタハメテ道具ヲ扱フナ袋ノ猫ハ鼠トリ

得ズ

或ハ仕事多クシテ力ニ餘ルコトモアラシサレドモ一心一

向ニコレヲ勉レバ其績ハ甚ダ大ナルモノナリ

里茶土ガ諺ニ云ク滴モ絶エ子バ石ニ穴ヲアケ

或人問テ云ク君ノ説ノ如クナラバ人タル者ハ寸暇ヲ得マ

カラズヤト余コレニ答フルニ里茶土ガ諺ヲ以テスルコト

尤ノ如シ

君若シ閑暇ヲ得ントナラバ君ガ月日ヲ空シク費ス勿レ



○一刺ノ未来ノ程モ測ラレズ如何デ一時ヲ徒ニ暮サン  
⊆閑ニシテ居ラレヌ事

佛蘭西ノバスタイルト云ヘル獄屋ニ七年ノ間押込メラレ  
シ者アリ朝夕為スベキ用事ナケレバ退屈ノ餘ニ所持セル  
五六本ノ針ヲ部屋ノ内ニ蒔散ラシ又コレヲ拾フテ様々ノ  
狀ニ並べ又搔集メテハ又散ラシナドシテ七年ノ月日ヲ送  
リタリ後出牢セシトキ其事ヲ友達ニ話シテ云ヘルニハ七  
年ノ間コノ用事ナカリセバ必ズ正氣ヲ失フテ狂ニモナリ  
シ筈ナラント

ⓧ將軍スピノラノ事

西班牙ノ將軍スピノラナル者ウエラト云フ人ニ尋ルニ君  
ノ弟ハ如何シテ死ナレシヤトアリケレバ彼ニハ為スベキ  
仕事ナク閑ニ過テ遂ニ命ヲ失ヒシナリトノ答ニスピノラ  
ハ歎息シテ云クサモアラン閑暇無為ノ力ハ鬼武者ヲ殺ス  
ニ足レリト

第五章自カラ其身ヲ動カシ自カラ其身ヲ頼ミ一身  
ノ獨ヲ謀ル事

凡ソ人タル者其身ノ活計ヲ立テ隨テ世ノ開化ヲ助成サン  
ニハ其方便ヲ銘々ノ身ニ求メザルベカラズ是即チ天ノ命  
ズル所ナリ他人ヲ頼ニシテ己ガ衣食ヲ求メントスルハ天



道ノ音ニアラズ故ニ此衣食ヲ求メンガ爲ニハ自カラ其身  
ヲ動カシテ働カザルベカラズ斯ノ如クスレバ慥ニ其活計  
ヲ立テ其樂ヲ受クベキナレドモ人頼ミ活計ハ甚ダ覺束ナ  
キ者ナリ  
故ニ少年ノ者ハ稚キ時ヨリ心裁テ成ル丈ケ他人ノ世話ニ  
ナラズシテ自分ノ用ヲ達スベシ先ヅ自分ニテ衣服ヲ着ヲ  
ボヘ自分ニテ食物ヲ食ヒヲボヘ母ノ手ヲ借ラズ又下女下  
男ノ世話ニナルベカラズ兼テ又讀書算用ヲ稽古シテ次第  
ニ博ク物事ヲ見聞シ間モナク世間並ノ一人ト爲リテ自カ  
ラ其身ヲ養フベキ覺悟ヲ設ケザルベカラズ故ニ學問ノ時

節ヲ誤ラズシテ藝術職業又ハ高賣ノ道ヲ執行シ生涯ノ渡  
世ノ用意ヲ爲シ置クベシ少年ノ輩ヨク自カラ其身ヲ動カ  
シ自分ノ働ヲ頼テ活計ヲ爲ストキハ世上ノ人ハコレヲ愛  
シコレヲ貴ムベシ入々働クベキ手ヲ持チ思案スベキ心ヲ  
具ヘナガラ鄰ノ人ノ働クヲ見テ自カラ不精ヲ構ヘ僅カノ  
骨折ニテ得ヤスキ樂ヲモ自カラ求ルヲ知ラズシテ空シク  
他人ノ憐ヲ仰グハ男子ノ耻ヅベキ振舞ト云フベシ  
①カノ神ト御者トノ事  
性質卑怯ナル御者アリ車ニ荷物ヲ載テ狭キ路ヲ走リシガ  
其車ノ輪子バキ泥ノ中ニ陷リ馬ノ力ニテコレヲ引出スコ

寓言



ト能ハズ御者ハ途方ニ暮レ大音揚テカノ神ヲ念ジ「ヘルク  
リス」我ヲ助ケ給ヘト呼ハリケレバ不思議ナルカナ一片ノ  
黒雲天降リテ神体ヲ頭ハシ命ゼラレケルハ見苦シキ奴カ  
ナ何故ニ斯ク平伏スルヤ早クモ起テ馬ニ鞭テ汝ノ肩ヲ人  
レテ車ノ輪ヲ押セ是即チ汝ヲ助ル神カナリト

○麥畑ノ雲雀ノ事 寓言

卯月ノ天氣暖ナル麥ノ畑ニ巢ヲカケテ雛子ヲ養フ雲雀ア  
リ餌ヲ求メニ出ル時其雛子ヘ留主中ノ事ニヨク氣ヲ付ケ  
ヨトテ云付ケ置キ日暮ニ巢ニ歸リシカバ雛子ノ云ヘルニ  
今日ハ畑ノ主人來テ其鄰ノ人ヘ此麥ヲ刈取ランコトヲ頼

居タリト告グレバ親鳥ハイマダ怒ル、ニ足ラズトテ驚ク  
氣色モナク翌日モ亦餌ヲ求メニ出掛ケシニ其日暮雛子ノ  
云ヘルニハ今日モ畑ノ主人來リテ其懇意ノ人ヘ麥刈ヲ頼  
居タリト告グレドモ親鳥ハ尚モ驚カズ隣ノ人ヘ頼ムトモ  
懇意ノ人ニ頼ムトモ更ニ氣遣ナケレバ安心セヨトテ其翌  
日モ例ノ如ク餌ノ詮索ニ出掛ケ日暮ニ歸リケレバ雛子ノ  
云ヘルニ今日ハ主人親子ニテコ、ニ來リ明朝ヨリ親子ニ  
人ニテ此麥ヲ刈取ラントノ話アリシト云ケレバ親鳥ハ始  
テ驚キサレバ我等モ覺悟スベキ時節ナリ隣ノ人ヤ懇意ノ  
者ヲ頼ムナドノキバリニテハ恐ル、ニ足ラザレドモ自カ



ラ自分ノ仕事ヲ為サントアリテハ必ズ其言葉ニ相違アル  
マジトテ即日ニ麥畑ヲ立退シト云フ

⑧ 貴族 ロベルトノ事

千七百二十二年蘇格蘭ノ北ノ方ニ古來名家ト唱フル貴族  
シル・ロベルトナル者アリ年十九歳ニシテ不幸ニ遇ヒ貧窮  
甚ダシクシテ貴族ノ家ヲ立ルコト能ハズ其時世上ノ風俗  
ニ從ヘバ貴族ノ身分ニテ斯ク困窮ニ及ブトキハ親類朋友  
ノ約介トナル歟又ハ政府ノ扶助ヲ蒙ルベキ筈ナレドモロ  
ベルトハコレヲ好マズ何トカシテ自分獨立ノ活計ヲ為サ  
ント決定シタリサレドモ固ヨリ貴族ノ家ニ生レシ者ニテ

職業ノ覺モアラサレバセシ方ナクツラク自分ノ働ヲ顧ル  
ニ兵卒ノ役ナラバ其身ニ叶フベシト思ヒ乃チ騎兵隊ニ入  
テ平ノ兵士ト為レリ  
或ル日ロベルトハ屯所ノ番兵ト為リテ門ノ立番ヲ勤居タ  
リシ処ヘ或ル貴人屯所ノ隊長ヘ用事アリテ門ヲ這入タレ  
ドモ折節隊長ノ許ニハ客來アリシニ由リ門際ニ差扣ヘテ  
待合スル間ニ立番ノ兵卒ト四方八方ノ話シスル序ニ其生  
國姓名ヲ聞ケバ紛モナキ貴族ロベルトナリヤカテ彼ノ貴  
人ハ案内ヲ受ケ隊長ニ面會シテ云ヒケルハ君ノ御威光ハ  
洪大ナル者カナ歷々ノ貴族ヲ以テ門番ニ召使ヒ給ヘルコ



ト諸國ノ帝王ニテモ身ニ叶ハザル面目ナリトテ事ノ次第  
ヲ告グルハ隊長ハ大ニ驚キ早速彼ノ門番ヲ呼テ尋ルニ其  
身ハイヨク貴族「ロベルト」ニ相違ナキヤ若シサモアラバ世  
ニ隱モナキ重キ身分斯ル賤シキ兵卒ノ勤ヲ為シ給フハ何  
故ナルヤトアリケレバ「ロベルト」ハ禮義ヲ正シ御尋ノ通り  
余ガ舊ノ身分ハ貴族ナレドモ不幸ニシテ一錢ノ貯ナキニ  
至リ親類朋友モ夥多アレドモ或ハ余ガ困窮ヲ救フニ力ナ  
キモノアリ或ハ其力アルモ其志ナキモノアリサレバ斯ル  
者共ハ寄繼リテ朝夕ノ烟ヲ揚ゲンヨリ自カラ身ノ位ヲ忘  
レテ假令ヒ卑キモ耻カシカラヌ勤ヲ為スコソ本意ナレト

思ヒ兵卒ノ奉公ヲ求タルナリト述ケレバ隊長モ且驚キ且  
稱歎シ其獨立ノ氣象ニ心酔シテコハ唯ナラス人物トテ取  
敢ズ其日ノ當番ヲ免シ馳走ヲ設ケテ共ニ飲食シ自カラ箠  
子ノ衣裳ヲ出シテ何レニテモ氣ニ叶ヒシ品ヲ撰ビ給ヘト  
懇ニ饗應セドモ「ロベルト」ハコレヲ辞退シ兵卒ノ勤ニ出ル  
以前ニ用ヒシ古衣アレバ斯ル美服ハ先ツ不用ナリトテ唯  
其厚キ志ヲ謝スルノミ其後隊長ハ益「ロベルト」ニ心ヲ掛ケ  
コレヲ推舉シテ騎兵ノ頭ニ任セリ隊長ニハ一人ノ女子ア  
リテ學問所ニ寄宿シ最早其執行モ成ラントスル時ナリ或  
日隊長「ロベルト」ト共ニ此學問所ニ行テ愛女ヲ尋子シトキ



ロベルトモ始テコレニ面會シテ互ニ知ル人トナリ月日ヲ  
 重スルニ從ヒ其交次第ニ親シクナレル様子ナレバ隊長ノ  
 思フニ我女子ニハ相應ノ身代モアリテ貴族ノ人ニ嫁ルト  
 モ差支ノ筋ナク又彼ノ「ロベルト」ハ給料ヲモ得ルコトナレ  
 バ兩人夫婦ト為リテ活計ヲ立ルニ十分ナルベシトテ乃チ  
 其意ヲ兩人ニ告ゲ双方共ニ異存モナク誓禮ノ儀式首尾ヨ  
 ク整フテ夫婦睦シキ一家ヲ興セリ其後二人ノ間ニ女子一  
 人ヲ設ケ成長ノ後「ロルド・ホルプス」妻トナリ夥多子供ヲ  
 生テ何レモ高位高官ニ昇レリ

③行ケト来レトノ違ノ事

英吉利ノ「ソリ」云フ鬼ニ一人ノ大百姓アリ所持ノ田地ヲ  
 耕シテ毎年二百「ポント」「ポント」ハイギリスノ通用金ノツ、  
 名ナリ我四兩ニ歩斗リニ当ル  
 ノ利徳アレドモ家ノ借財次第ニ増シテ返済ノ方便ナク遂  
 ニ其田地半分ヲ賣拂ヒ半分ハ二十一年ノ期限ニテ小前ノ  
 百姓ニ貸シタリ斯ク月日ヲ送ル間ニハヤ其期限モ満ント  
 スル時ニ至リ地借ノ百姓例年ノ地代ヲ持来リテ序ナガラ  
 此田地モ永代賣拂フテハ如何哉ト談ゼシニ地主ハコレヲ  
 怪ミ其許ニテ地面ヲ所望セラル、哉ト云ヒケレバ如何ニ  
 モ尤様ナリ差支ナクバ蔡ニテ買請タキモノナリトアリ地  
 主ハ大ニ驚キ蔡ハ此田地ノ二倍夫ケヲ自分ニ支配シテ固



ヨリ我地面ナレバ地代ヲモ拂ハザリシニ家ノ暮向立行カ  
ズ然ルニ今其許ハ其半分ヲ借リテ地代ヲモ拂ヒ僅ニ二十  
年許リノ間ニハヤ其田地ヲ買請ル程ノ身代トナリシハ實  
ニ不思議ナル相違カラズヤト尋ケレバ地借ハ笑テ含ミ此  
相違ハ二ノ言葉ニ由テ出来ルナリ即チ君ハ行ケト云ヒ我  
ハ来レト云フノミト答フレドモ地主ハ其意ヲ受取ラズソ  
ハ如何ナル訳ナリヤト再ビ尋レバ地借ノ云ク君ハ毎朝日  
高クシテ眠リ或ハ慰ニ耽リテ自分ノ事ヲ為スニ他人ヲ使  
ヒ唯行ケト云ヘリ我ハ早ク起テ自カラ我事ヲ為シ他人  
ニ先チ来レト云フノミ

第六章 根柢ガル事

人ハ危ニ近ヅク可ラズ自カラ求テ危ニ近ヅク者ハ愚人ナ  
リサレドモ若シ危キ事ニ出逢フコトアラバ氣力ヲ張り心  
ヲ慥ニシテ靜ニ覺悟ヲ為スベシ何程用心スルトモ生涯ノ  
間危キ事ニ出逢フマジトノ言誥ハ出来ヌモノナリ衣服ニ  
火ノ付クコトアリ家ヨリ火ヲ出スコトアリ水ニ落チテ溺  
ル、者アリ馬車ニ乗テ怪我ヲ為ル者アリ時ノ機ニ由テハ  
命ヲモ失フベキナレドモ其危キ時ニ差掛リ心ヲ用ヒ平氣  
ニナリテ覺悟ヲ為セバ大怪我ヲ遁レ死スベキ命ヲモ救ヒ  
得ベシ



危キ場合ニ差臨ミ人ノ覺悟ニ由テハ隨分遁ルベキ路ナキ  
ニアラザルモ或ハ一時ノ驚ニ途方ヲ失フテ何事ヲモ爲シ  
得ズコレガ爲其災害ハマス、暮リテ遂ニ身ヲ傷ヒ命ヲ失  
フ者少ナカラズ都テ危難ニ出逢フコトアラバ其騷ニ心ヲ  
取失ハズシテ静ニ身構ヲ爲シキワドキ鬼ヲ遁ルベシコレ  
ヲ人ノ膽カト云フ尊ムベキ徳ナリ  
譬ヘバ衣服ニ火ノ付テ燃ルコトアラバ走テ人ノ助ヲ求ム  
ベカラズ立テ走レバ其火ハ益燃立チ遂ニ其身ヲ焼クニ至  
ルベキガ故ニ早く横ニ倒レテ轉ルヲ佳トス火ノ勢ヲ防グ  
ベシ或ハ手近ク<sup>コ</sup>ランゲット<sup>ト</sup>ナドアラバコレニ身ヲ纏ヒ直

ニ火ヲ消スベシ  
火事場ノ家ニ烟滿タル中ヲ通ルニハ立テ行クベカラズ息  
ヲ留テ倒ル、コトアリ煙ノ中ヲ通行スルニハ手豆ニテ這  
フベシ呼吸スルニヨキ空氣ハ低キ処ニ在ル故ナリ  
水ニ落テ泳ノ術ヲ知ラザル者ハ成丈ケ静ニシテ身ヲ動カ  
スコトナク息ヲ吸フテ肺ノ臟ヲフクラシ唯口バカリテ水  
ノ上ニ出サントスル心持ニナルベシ斯クスレバ人ノ体ハ  
水ヨリ少シク輕キユエ必ズ上ニ浮ムモノナリ若シ然ラズ  
シテ一時ノ驚ニ心ヲ取失ヒ妄ニ身悶スルトキハ必ズ水底  
ニ沈テ命ヲ失フベシ



馬車ニ乗リテ其馬ノ荒レテ驛イダスコトアラバ遽シク車ヨリ飛出スベカラズ物静ニ落付キ如何スベシヤト分別スル内ニハ大抵馬ハ自カラ止ルモノナリ然ルトキハ固ヨリ怪我ノ患ナシ或ハ時ノ模様ニ由リ是非トモ車ヲ出デズシテ叶ハザルコトアラバ車ノ後ノ方ヘ静ニ飛ブベシ其次弟ハ車ニ乗テ走ルトキハ車ノ中ノ人ノ体ニモ自カラ前ニ進ム勢ヲ得ルモノナレバ車ヨリ飛テ足ノ地ニ付ク迄モ其勢ハ變ルコトナク我心ヲ以テ我身ヲ制スベカラズ故ニ今車ノ後ノ方ヘ飛下ルハトキハ前ニ進マントスル勢ニ逆フテ地ニ倒ルハコトトキヲ得ベケレバナリ

①火事ノ時ニ二人ノ婦人心得方ノ異ナル事

或ル家ノ婦人二階ニ臥シ火事ノ騒ニ目ヲ覺マシ見レバ烟ハ早ヤ其部屋ニ入来レリ階ヲ上リ三階ニ寐タル子供ヲ窓ヨリ出スベキ筈ナルニ狼狽ノ餘リ取ルモノモ取敢ズ我子供ヲモ打忘レテ階ヲ下リ獨リ往來ニ駭出シテ其家ヲ顧レハ既ニ火中ノ烟トナリテコレニ近ヅクテ得ズ子ヲ思フテ心ヲ傷マレムルモ其甲斐ナカリシト云フ  
又一人ノ婦人アリ火事ノ響ニ驚キ見レバ火焰ハ既ニ階子ノ下ニ及ベル様ナリ主人ハ遽テ戸ヲ開カントセシニコレヲ押止メ戸ヲ明ケナシ入込ム烟ニ堪ザラントテ物静ニエ



夫ヲ運ラシ次ノ間ニ寐タル小供ト下女トヲ起シ夜具ト  
ラシケツトカラゲニ階ノ窓ヨリ先ツ下女ヲ釣節シ次ニ子  
供ヲ一人ヅ、仰シテ下ヨリ下女ニ受取ラセ其後ニテ主人  
夫婦モ窓ヨリ下リ家内一同無難ニ其場ヲ立退テ間モナク  
家ハ焼落タリ

○麥川ル百姓怪我セシ事

人ノ体ノ脉ハ動脈ト静脈トテ二様ニ區別シ動脈ノ本ハ心  
ノ臟ヨリ出デ、血ヲ送出シ小枝ニ分レテ体ノ内外隅々マ  
デモ行亘リ静脈ノ小枝ノ端ニツナガリテ其血ヲ移シ又本  
ノ心ノ臟ヘ血ヲ送返ス仕掛ニ為レリ譬ヘバ動脈ハ血ノ往

路静脈ハ血ノ歸路ニシテ心ノ臟ハ血ノ溜トモ云フベシ故  
ニ誤テ動脈ヲ切ルコトアレバ水道ノ樋ヲ切タルト同ジ誤  
ニテ夥多シク血ヲ吹出シコレヲ止ルコト甚ダ難シ何レニ  
モ其切口ト心ノ臟トノ間ニ通フ血ノ道ヲ塞グヨリ外ニ方  
便ナシ

或ル百姓鎌モテ畑ノ麥ヲ刈リ誤テ動脈ヲ切り恐ロシク出  
血セシニ傍ノ人ハコレヲ見テ途方ニ暮レ老若男女彼方エ  
行キ此方ニ来リ或ハ唯忙然トシテ立居タルモアリコノマ  
マ捨置キナバ血モ出盡シテ怪我人ハ忽チ死スベキ筈ナル  
ニ機轉キ、タル娘ノ子一人アリテ已ガ足袋ノ紐ヲ解キ其



疵口ノ上ノ方ヲ堅ク縛テ失血ヲ止メ置キ其間ニ醫者ノ手  
當シテ命ヲ救ヒタリト云フ 彼邦ノ足袋ノ紐ハ長クシテ  
脚ノ処ヲ結ブヤウニセリ

ハ黒キ種物ノ事

千七百年ノ時代英吉利王第二世ジヨフジノ御代同國エダ  
ンボルフト云フ処ニ茶砂糖其外種物ナド高フデワルト云  
フ町人アリテ住居ノ下ニ穴藏ヲ設ケ夥多シク商賣ノ品物  
ヲ貯ヘリ或日下女ヲ呼ビ穴藏へ入テ石鹼ヲ出シ来レト云  
付クレバ下女ハ手籠ヲ携ヘ蠟燭ヲ燈シテ片方ニ手燭ナキ  
マ、ニ裸火ヲモテ藏ニ入り石鹼ヲ籠ニ移ストキ蠟燭ノ置  
処ニ困リテ傍ヲ見ルニロヲ開キタル袋ニ黒キ種物ト思シ

キモノアルユエツガ中へ蠟燭ヲサシテ手燭臺ノ代トナシ  
用事終リテ穴藏ノ階子ヲ上ルトキ両手共フサガリタレバ  
蠟燭ヲバ其マ、置テ藏ヨリ出デ来レリ主人ハコレヲ見テ  
彼ノ蠟燭ハ何処へ置キシヤト尋レバ下女ハ何心ナク石鹼  
ノ片方ニアル黒キ種物ノ中へ立置タリト云フニ主人ハ打  
驚キ其黒キ種物トハ焰焔ナリ一点ノ火ノ粉落ナバ此家ヲ  
焼拂フテ家内ノ人ハ一時ノ煙トナラシメ假令ヒサナクモ暫  
時ノ間ニ蠟燭ノ火ハ焰焔ニ燃下ルベシ外ニ逃去ラントス  
レバ家ヲ焼キ家財ヲ失フコト疑モアラズ藏ニ這入テ蠟燭  
ヲ消サントスレバ己ガ一命ヲ失フ程モハラズトマセン



カクハ分別ヲ定ル暇モ瞬ク間決断ハヤ主人ノ膽力完藏  
ノ階子ヲ下リ見レハ蠟燭ノ火ハ耀キテ今ニモ焰梢ニ燃付  
ントスル有様ナレドモ更ニ驟ル氣色ナク尚モ思索ヲ運ラ  
シケルハ今コレニ走寄ラバ風ヲ起シテ火花ヲ落スコトモ  
アラシト急グ心ヲ押鎮メ静ニ袋ノ側ニ近ヅキ身ヲ屈テ兩  
手ヲ差出シ水ヲ掬テ如ク手ヲクボメテ蠟燭ノ火ノ下ヨ  
リスク取リ一点ノ火ノ粉ヲモ落サズシテ遂ニ大難ヲ遁  
レタリ

難ヲ救ヒ其後高賣モ次第ニ繁昌シテ地面ナド多ク買入レ  
子孫今ニ至ルマデ其家ヲ相續セリ

童蒙教草卷之一終



董榮椿草錄之一

子孫今之至者其來之跡也  
雖其殊其野高貴之六也  
譽昌之此面之其入



終